



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 学内広報

for communication across the UT



特集： ■ Life in Green Project ってなに？  
■ 東京大学学生支援事業・第3回学生企画  
コンテスト表彰式及び懇談会

2010.7.26

No. 1401

# 特集

# Life in Green Project ってなに？

「小石川植物園」と「日光植物園」を世界に誇る植物多様性の研究施設として整備し、社会に開かれた植物園へと発展させるプロジェクトです。

今回の特集ではこのプロジェクトについて説明します。

<http://green.todai-kikin.jp/>

## ①温室が危ない！！

小石川植物園の公開温室は、木造から鉄骨への改築工事より既に45年が経過し、著しく老朽化しています。



## ②温室は最も重要な栽培施設

小石川植物園の温室では絶滅危惧種など、貴重な植物資源を系統保存しています。熱帯・亜熱帯地域は、被子植物が最も多様で、系統も原始的であり、植物多様性のポイントとなる研究資源や、有用資源になる植物の多くが集中しています。熱帯・亜熱帯地域の環境悪化が進んでいるため、研究のための現地調査と共に、温室で生植物を系統的に収集・保存することが必要です。

絶滅危惧ⅠA類(CR)	絶滅の危機に瀕しており、ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧ⅠB類(EN)	ⅠA類ほどではないが、ごく近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧(NT)	現時点では危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種



●小石川植物園の温室には、  
実はこんなに貴重な植物が！！

### 絶滅危惧ⅠA類



シマカコソウ



ムニンツツジ



シマホザキラン



ムニンノボタン

### 絶滅危惧Ⅱ類



ムニンタツナミソウ



ツルワダン

### 準絶滅危惧



タチテンノウメ



### ③こんなにすごい われらが植物園

小石川植物園 正式名称: 東京大学大学院理学系研究科附属植物園

研究者と大学院生が最先端の研究を行い、その結果を発表しています。技術職員の植物栽培レベルは極めて高く、絶滅危惧種の救済に大きく貢献しています。園内は一般にも公開され、小石川と日光の植物園で年間約15万人が入園します。



●小石川植物園は日本に現存する最古の植物園

徳川幕府の「御薬園」を原点とする、近代植物学発祥の地。アジアを代表する植物園・標本室として、海外からの来訪者や標本の借用依頼に対応しています。

- ・植物栽培: 約4,000種
- ・標本保有: 約60万点  
(日本一の質量を誇る東京大学所有植物標本の約半数)

日光植物園

正式名称: 東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園

恵まれた自然環境を生かし、フィールド研究や野外実習の拠点として利用されています。

- ・植物栽培: 約2,000種



保管する場所がなく置かれた  
ままの貴重な標本たち。。。。



享保7年(西暦1722)年に設立された小石川養生所で使われた井戸です。大正12年(西暦1923年)の関東大震災の時には、飲料水として役立ちました。



## ●ニュートンのりんご



英国の物理学者、ニュートン(1643～1727)が、リンゴの実が木から落ちるのを見て、「万有引力の法則」を発見した逸話は有名です。

ニュートンの生家にあったリンゴの木は、接ぎ木により各国の科学機関に分譲されていますが、本園の株は、1964年に英国物理学研究所所長サザーランド卿から、日本学士院長 柴田雄次博士に贈られたものです。

## ●精子発見のイチヨウ



植物学教室の職員であった平瀬五郎によって精子が発見されたことで特に有名です。イチヨウには雄株・雌株があり、精子が発見された株は、なんと雌株なのです。秋にはギンナンがたくさん実ります。

## ●メンデルの葡萄



遺伝学の基礎を築いたメンデル(1822-1884)が実験に用いた葡萄の分株です。

## ●アインシュタイン博士来園



1922年11月、アインシュタイン博士(写真中央)、エルザ夫人(写真右)が来園され、三好園長(当時、写真左)とともに園内を歩かれた時の貴重な写真です。小石川植物園は、国内だけでなく、世界各国の研究者から注目されています。

### 学内イベントも開催

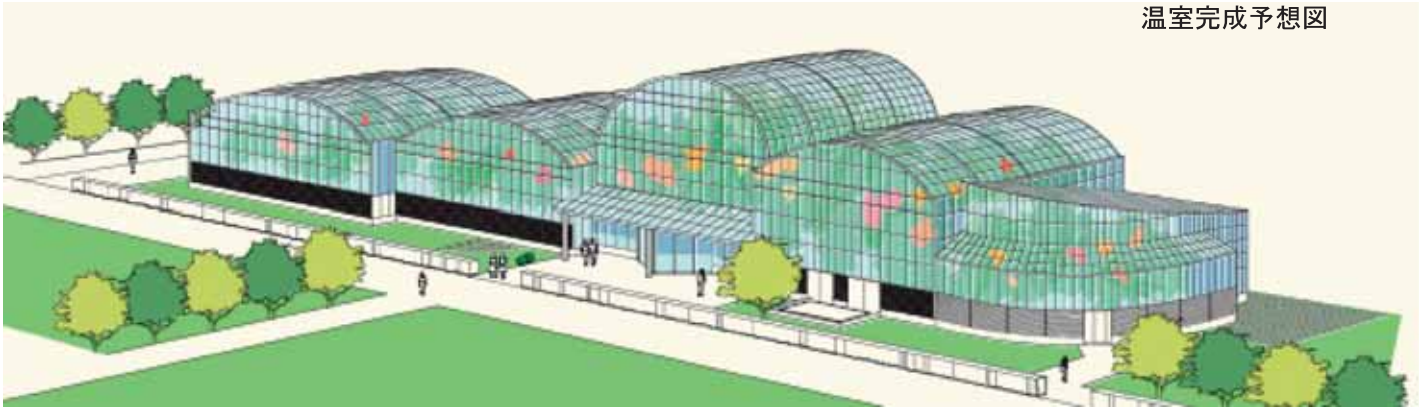


お花見など、理学系研究科の親睦を深める交歓会も開催



④まずは  
こんな植物園にしたい！！

Life in Green Project 第1期計画



温室完成予想図

●小石川植物園温室改築更新

管理環境の改善によるコレクションの充実  
栽培管理効率の向上  
(貴重植物区画・展示面積増・空中作業路)  
一般公開の再開  
バリアフリー化(通路拡張など)

●小石川植物園栽培管理環境の改善

栽培管理効率の向上  
(作業室、物置・車庫、鉢棚)

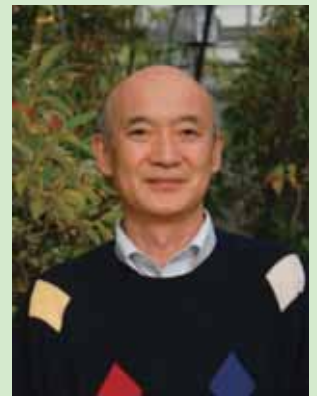
●日光植物園越冬温室等の改修

栽培管理効率の向上(作業室、物置・鉢棚)

●公開に関する環境整備

バリアフリー化  
(身障者用駐車場、道路の舗装)  
門の整備  
(門の増設、自動券売機設置)

Life in Green 計画が始まり、緑の大切さをますます感じるようになりました。たくさんの小さな木の実から芽生えた木がやがて大きくなって立派な森をつくるように、一人でも多くの皆様のお力で計画を実現していきたいと思っています。



植物園長 邑田 仁 (むらた じん)



# みんなで温室を守りましょう！！

**Q** : どうして今まで温室は改修できなかったの？

概算要求を出し続けていますが通りません。

**Q** : 温室を改修するのにどれくらいのお金が必要？

温室改修には6億円、第1期計画全体で10億円必要です。

**Q** : 今、どれくらいのお金が集まっている？

2010年6月末時点で314件2,030万円のご支援をいただいています。

**Q** : どうやってお金を集めているの？

- ① 渉外本部と協力し、大学に寄附をいただいた方々を対象に特別セミナーを行い寄附を呼びかけています。
- ② 後援会も立ち上がり寄附を募っています。
- ③ 理学系研究科内でも呼びかけています。

**Q** : どうやって支援すれば？

- ① 植物園で配布している寄附申込書から。
- ② 東京大学基金ホームページから。
- ③ 支援グッズの『植物園のど飴』を買う！！



本郷、駒場キャンパスの生協、小石川植物園売店にて1袋300円で好評販売中！！

銀杏、かりん、ゆずが入っています。まもなく夏季限定パックを発売予定。収益は本プロジェクトに使われます。

※①②は東京大学へのご寄附として税制上の優遇措置が受けられます。

自然と歴史が融合した小石川植物園と日光植物園。この稀に見る豊かさを未来世代に送り届けましょう。私も寄附しています。



理学系研究科長 山形俊男



特別セミナー集合写真

温室に

☆銘板を作ります☆

10万円以上のご寄附をいただいた方は、新しい温室にて、銘板にお名前を記して末永く展示いたします。

渉外本部では、この他にも募金活動を支援しています。教養学部、生産技術研究所の周年事業、アメフト部、野球部の活動支援など、東大基金支援プロジェクトとして、続々と立ち上げています。

詳しくはこちらまで  
渉外本部  
下田(内線:20496)  
齋藤(内線:20541)

# 東京大学学生支援事業・第3回学生企画 コンテスト表彰式及び懇談会

東京大学学生支援事業・第3回学生企画コンテスト表彰式は、6月18日(金)18時から山上会館(本郷キャンパス)にて開催されました。

今回は22件の応募があり、学生企画コンテスト選考委員会の厳正なる審査の結果、優秀賞には「東京大学を編集して魅せる！」が、佳作には「MESH-NAVI(メシナビ)」及び「大学シラバスのネットワーク化」が、それぞれ選ばれました。

表彰式では、小島憲道理事(副学長)の挨拶及び桑原正貴学生企画コンテスト選考委員会委員長からの審査結果報告に続いて、濱田純一総長からの祝辞があり、今回の受賞企画及び前回の受賞企画実施報告のプレゼンテーションが行われました。



受賞者全員との記念撮影



優秀賞を受賞した企画「東京大学を編集して魅せる！」



実施報告をする前回受賞企画  
「地方高校でも東大がぐっと身近に！」

その後、山上会館内の別会場にて懇談会が開催されました。

懇談会には、5企画(今年度3企画、昨年度2企画)の関係者が祝福に集まり、華やいだ雰囲気の中で行われ、「タフな学生を養成する」という総長の思いに応えた学生たちが、熱い議論を戦わせ、また総長・役員との懇親を深め、有意義な時間を過ごしました。



## 優秀賞 受賞企画



**優秀賞受賞企画**  
『東京大学を編集して魅せる！』  
菅野康太(理学系研究科博士2年)  
飯島和樹(総合文化研究科博士3年)

未だ、科学界・学術界以外にはあまり知られていないサイエンスコミュニケーションを、異分野とのコラボレーション企画を通して広く様々な社会の文脈へと伝えることで、科学に興味・関心を抱く人や分野を増やしていくことを目的とする。特に、コラボレーション企画を通して各分野のオピニオンリーダーやマスメディアに科学を理解し興味を持ってもらうことで、その人達を通して二次的に情報が広まることも目指す。具体的にはトークイベント、ワークショップ、映像の上映会とその解説、討論会、などを企画運営し、それらの活動記録を出版物にしていこうと目指していく。また、活動記録の一部はWEB上でアーカイブ化、マップ化することも試みる。  
(応募書類から引用)





佳作受賞企画  
『MESHI-NAVI(メシナビ)』  
代表者:福島良典(工学部4年)  
(写真右から二人目)

食堂のメニューの名前、原材料、栄養価などが多言語表示される機器を製作し食堂に設置する。留学生にアンケートをした結果、10人中8人が「食堂で日本語が分からず困った経験がある」と回答した。大学食堂では、メニュー名や原材料(宗教上の理由から)などを留学生のために外国語表記する要請が強い。本企画では東大の食堂に機器を設置することがゴールであるが、東大で評判が良かった場合、他大学にも同様の製品を展開する。その際は、機器の販売とコンテンツ作成費を収入源として運営していく。

(応募書類から引用)



佳作受賞企画  
『大学のシラバスのネットワーク化』  
代表者:井川一樹(工学系研究科修士1年)

本企画ではシラバス検索に際して、関連講義を提示することで専攻と異なる学問分野の講義でも容易に検索でき、全学部を横断した履修選択が可能となる。また関連論文、関連書籍を提示することで学生の学習意欲を刺激し、学力の向上に寄与する。細分化された学門分野を横断的に俯瞰できる力、多様化する社会に適合する力を持った人間を育成し、タフな東大生の実現を促進する。本企画によって学生生活を快適化し、よりよい学習環境が実現される。

(応募書類から引用)



懇談会の様子



乾杯の挨拶をする小島理事(副学長)



表彰式で実施報告をした前回受賞企画  
「食環境改善プロジェクト」

■本件問合せ先:本部学生支援課 有野(内線:22513)

# NEWS

## 一般ニュース

### 海洋アライアンス

#### 第9回イブニングセミナー開催の報告

一般

5月21日(金)、本郷キャンパス・工学部3号館において、海洋アライアンス・第9回イブニングセミナーが開催された。同セミナーは、海洋アライアンスメンバーの相互理解を図ると同時に親睦を深めることを目的に、各自の研究を紹介しあうものである。今回は、アジア生物資源環境研究センターの福代康夫教授による講演「船舶による海洋生物移動の規制に関わる最近の動向」が行われた。

生物の移動には、「見かけの移動」と「真の移動」がある。前者は、調査を通じた新たな発見あるいは環境変化によって隠れた生物群が顕在化するなどにより、また後者は、海流等の自然現象または人間活動に伴う分布域の拡大が主要因である。講演テーマの「船舶による生物移動」は後者に相当する。船舶による生物移動は、さらに、船の安定を保つために積む水「バラスト水」によるものと、「船体付着」によるものに大別できる。いずれも、船舶の入港地周辺の生態系攪乱や産業プラントの稼働障害などの問題を引き起こしている。

国際海事機関(IMO)は2004年に「船舶のバラスト水及び沈殿物の規制及び管理のための国際条約」(通称:バラスト水管理条約)を採択した。現在24ヶ国が批准しているが、わが国は現実性の乏しい基準が導入されていることもあり、批准には至っていない。この件に関して、演者は科学的議論をおごなりにせず、実用的な検討の必要性を訴えた。一方の船体付着に関しては、先の条約の反省から、付着の防止と除去に現実的な基準となるガイドラインを作成しているとのことである。

講演終了後の質疑応答の時間にも様々な話が披露され

た。例えば、中南米で発生したコレラによる死亡事例の際、世界保健機構がバラスト水を原因としたため、その後の条約の中に病原体の移動が盛り込まれたことなどは興味深かった。

IMOの日本代表を務める福代教授の講演は、国際的な条約の制定の現場にあって、科学が果たす役割を考えさせるセミナーであった。



福代教授を中心に活発な質疑が行われた

第10回イブニングセミナーは7月29日に行われました。

海洋アライアンス ホームページ:

<http://www.oa.u-tokyo.ac.jp>

### 学生相談ネットワーク本部

#### 学生相談ネットワーク本部主催講習会「心をつなぐ工夫」(第2回、第3回)を開催

一般

平成22年度学生相談ネットワーク本部主催講習会「心をつなぐ工夫」の第2回「発達障害がありそうな人への理解を深める」が6月1日(火)に本郷キャンパス小柴ホールにおいて、第3回「駒場キャンパスの大学生・大学院生の特徴」が6月15日(火)に駒場Iキャンパス数理工学研究所大講義室において、それぞれ開催された。

第2回講習会では渡邊慶一郎精神保健支援室長による講義「発達障害がありそうな人への理解を深める」及び亀口憲治企画室長による講義「アスペルガー障害と対人関係支援の工夫」が行われ、引き続き、発達障害等に関する各種質疑応答が活発に行われた。平成17年に発達障害者支援法が施行されているが、本学においては現在新たな支援体制の整備を急務として準備を進めているところである。

第3回講習会では駒場学生相談所の石垣琢磨教授による講義「東京大学駒場学生相談所の現状から見る最近の学部生・院生の特徴」が行われ、引き続き、駒場学生相談所の松島公望助教、杉山明子特任助教、荘島幸子教務補佐員が加わり、演習(学生への対応についてのグループディスカッション)が行われた。演習では様々な意見

交換がなされ、多様な学生に対応・理解するための知識取得の場となった。

参加者は、第2回が34名（13部局、教員6名、職員28名）、第3回が39名（7部局、教員11名、職員28名）であった。

学生相談ネットワーク本部では、従来から本学教職員に対して学生のメンタルケア能力修得を目的とした講習会を実施しており、本年度は「心をつなぐ工夫」に焦点を当て、毎回異なるテーマを設けて5回開催している。教育・研究の場で学生指導にあたる教員、窓口で学生に関わる職員、そして学生対応に関心のある教職員の方々に、今後も講習会等を通じて学生対応への理解を深めたい。

#### 【今後の実施日程】

※第4回 10月19日（火）… 駒場Ⅱキャンパス

「最近の大学院生の特徴」

※第5回 10月27日（水）… 柏キャンパス

「学生は学生相談所・精神科をどう利用しているか？」

※詳細は、学生相談ネットワーク本部のホームページを御参照ください。→ <http://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/>



渡邊慶一郎精神保健支援室長による講義（第2回講習）



亀口憲治企画室長による講義（第2回講習）



石垣琢磨教授による講義（第3回講習）



演習の様子（第3回講習）

#### 本部キャリアサポート課



一般

#### 知の創造的摩擦プロジェクト第10回交流会開催

6月5日（土）本郷キャンパス御殿下ジムナジウムにおいて、知の創造的摩擦プロジェクト第10回交流会「あなたが変わる、社会を変える。」が開催された。

これは本学学生と各界で活躍する若手卒業生との交流を通して、学生のキャリア形成支援を目指す大学主催のイベントで、2005年10月に本郷キャンパスにて第1回が開催され、今回が第10回目。約570名（うち卒業生130名）が参加した。

開会にあたり、学生担当である小島憲道理事（副学長）から、「知の創造的摩擦プロジェクト交流会は第10回を迎えて、この会を経験した学生諸君が社会人となり、再びこの会に卒業生として参加してくれるという循環が生まれていることは誠に喜ばしい。濱田純一総長が就任後打ち出された行動シナリオの中では『タフな東大生』、『卒業生との密接なネットワークの形成』を目標の一つに掲げておられ、本日の交流会はまさにこの考えに沿うものであり、この場が卒業生と在校生にとって、活気に満ちた刺激的な場になることを願っている。」との挨拶があった。

第一部では中規模のグループディスカッション及びワークショップが行われ、引き続き17時半から中央食堂のところを移して第二部（懇談会）が開かれ、途中適宜グループを替えながら、19時まで熱い会話の輪が広がった。参加した学生からは「非常に楽しかった。また是非開催してほしい」との声が多く、卒業生からも「卒業した同じ学部の学生から自分のキャリアについて鋭い質問がどんどん飛んできて、非常に良い刺激を受けた。これまで何度も交流会に参加したが、今回ほど疲れたことはない（笑）」、「自分も若いつもりでいたが、やはり学生のエネルギーはすごい。自分としても非常にモチベーションが上がった」等、学生と卒業生の両方にとって満足度の高い充実した内容であったことをうかがわせる声が多く届いた。

本イベントの企画、運営等は、卒業生有志の集い「東京大学三四郎会」と、本学学生サークル「東大ドリームネット」の多大なる協力のもとに行われたものである。



小島理事（副学長）による開会の挨拶



熱気あふれる交流の輪

起きている場所、周辺の目印になる建物の名称、負傷者の有無、負傷者の状態、など複数の項目を日本語で的確に伝えなければならない。そのせいか、事務局職員2名の実演に続いてボランティアを募ったものの、手を上げる居住者は出なかった。

それでもその後の質疑応答では、複数の参加者が、家電製品が引火した際の対応の仕方、地震で大きな揺れを感じた直後の対応の仕方など、消防署員に熱心に質問し、その回答にうなずいていた。訓練のあとは交流会に移行、居住者たちには充実した週末となった。



消防署員から消火器の操作法を学ぶ



消火栓近くで説明に耳を傾ける

#### 本部管理課

#### 柏ロッジで、初の消防訓練

一般

本年3月にオープンした柏インターナショナル・ロッジで、柏消防署の協力のもと、6月12日（土）に初の消防訓練が行われた。柏ロッジは鉄筋コンクリート造4階建てで、单身・夫婦・家族の別に合計143の居室と多目的ホール、会議室、ラウンジ、各階にあるコモナルームなどの施設から成り、外国人研究者、留学生およびその家族が入居している。

14時に各階5箇所に設置された20の火災報知機が一斉に鳴り響くと、ロッジ事務室は警報機が作動したことを英語と日本語で全館に知らせ、次いで火災の確認を行うまでの間居室にとどまるように指示を出した。3階コモナルームに火災が発生したという想定に基づき、すぐに避難誘導のアナウンスを行うと、ロッジ居住者は次々に指定の避難経路を使って避難場所に集合した。

集合場所では、そのまま消火器を使った消火訓練に移行。この場面では、同時進行で火災の発生を周囲に知らせなくてはならない。実演のボランティアに名乗りをあげた居住者たちは、「カジダ！カジダ！」と日本語で叫びながら消火にあたり、一気に場を盛り上げた。

次いで室内に移動し、119番通報の訓練を行った。通報にあたっては、火事か救急か、通報者の氏名、火災が

#### 環境安全本部

#### 「本郷消防団消防操法大会」実施される

一般

6月13日（日）10時から11時30分まで、本郷消防署による「本郷消防団消防操法大会」が、本郷キャンパス弓道場西側通路部分で実施された。

この大会は、日夜、地域防災のため活動している消防団員が、ポンプを使った安全で確実な操法と所要時間を競うものであり、東京都の「特別区消防団可搬ポンプ操法」に基づき、消防用機械器具を取り扱い、操作しなければならない。

今年度の競技は、可搬ポンプ基本操法とホース1本増加操法であり、参加した文京区内第1分団から第6分団の消防団員およそ130名が、来賓80名（文京区長、国会議員、都議会議員、区議会議員、管内町会長、東京大学環境安全本部企画調整部長等）、消防職員35名、地域住民の方々が見守るなか、社会科学研究所と情報学環を右手にして、日頃鍛えた技術を競った。消防団員らは、競技開始の合図と共にホースをつないで、放水準備を行い、防火水槽からおよそ60メートル離れた「火点（かてん）」に向かって、次々と放水活動を行った。

審査の結果、見事優勝を果たしたのは第5分団（千駄木方面）だった。準優勝が第4分団（根津・弥生方面）、第3位が第3分団（西方方面）だった。

消防活動においては、消防本部の充実とともに、地域防災の中核となる消防団の役割が重要となっていると聞く。環境安全本部としては、仕事や家庭の都合などの合間をぬって訓練を積んでいる、これら消防団員の活動を支援することによって、地域防災に貢献することも、大学の大切な活動のひとつとして考えている。



火災現場を意識した「火点（かてん）」と呼ばれる的に向かって、いきおいよく放水が行われた



消防団指揮者からの報告  
(右前方、小山富士雄環境安全本部・企画調整部長)



#### 本部奨学厚生課

「東京大学光イノベーション基金奨学金」平成22年度受給者証書授与式を開催

光科学関連の先端企業8社のご寄附により、産学連携型の特定期奨学金としては、平成20年度に初めて設立された「東京大学光イノベーション基金奨学金」の平成22年度受給者証書授与式が、6月14日（月）に、関係教職員及びご寄附いただいた企業各社の方々の臨席の下に安田講堂学生部会議室で開催された。

本奨学金は、先端光科学領域の研究に従事する大学院修士課程2年生のうち、特に優秀な者に月額15万円を平成23年3月までの12ヶ月間支給することにより、その学術研究への取り組みを支援するものである。

基金へ拠出いただいているのは、ウシオ電機株式会社、オムロン株式会社、オリンパス株式会社、シグマ光機株式会社、日亜化学工業株式会社、浜松ホトニクス株式会社、株式会社ブイ・テクノロジー、富士フィルム株式会社（以上、五十音順）である。

今年度は、研究業績、成績等を厳正に審査した結果、4名が奨学金を受けるにふさわしい特に優秀な者として選考され、小島憲道理事（副学長）から受給者に受給者証書が手渡された。

小島理事（副学長）からは、「受給者には、本学のみならず、ご厚意をいただいた企業各社の方々も期待しています。研究に最大限の努力を傾注し、大きな成果をあげていただきたい。また、ご寄附いただいた企業各社には大変感謝しています。本学は今後も教育研究の一層の充実・発展に努力していきます」との挨拶があった。

次いで、企業各社を代表して浜松ホトニクス株式会社菅博文氏から「奨学金受給者となられたことを祝福するとともに、今後、日本の科学を担う人材として、ご活躍を期待しています」との祝辞が述べられた。最後に受給者の4人からは、取り組んでいる研究内容の説明、基金拠出企業に対する謝辞とともに、本奨学金受給者としての自覚をもち、より一層努力していく旨のスピーチがあった。



受給者との記念撮影



### 本部人事企画課

## 濱田総長から村尾男女共同参画室長に「女子の進学促進」に関する審議依頼が行われる

本年3月に公表された「東京大学の行動シナリオーFOREST 2015」においては、重点テーマ『「タフな東大生」の育成』の中に、学生構成に関する達成目標として、「2020年までに女性比率30%」を目指す旨を盛り込んでいるが、女子学生比率は約20%程度で推移しており、顕著な上昇は見られない状況である。このような女子学生比率の停滞は、その克服が急務と考えられ、幅広い観点からの検討が求められる。このことから、6月24日（木）、濱田純一総長から村尾美緒男女共同参画室長に対して「女子の進学促進に向けて、審議と提言のお願い」と題する異例の審議依頼が行われた。

依頼内容は、男女共同参画室において、進学促進部会を中心として、学生構成に関する達成目標の実現に向けた具体的な方策について総合的な検討を進め、提言をとりまとめることである。その際には、(1)女子学生の進学を阻害する原因・背景に関する多角的な分析や、従前の進学促進策の成果と課題の検証、(2)広報活動の充実にとどまらず、入学者受入れの仕組み、経済的支援や施設の在り方なども含めて、幅広い観点に立っての検討についてもとりまとめることとなっている。(本年度内を目途)

同室では、同日に平成22年度第1回男女共同参画室会議（担当理事：久保公人理事、室長：村尾美緒准教授）を開催し、審議依頼内容について意見交換後、本年度内を目途に同室で審議し、提言をとりまとめて総長に報告することとした。



### 本部人事給与課

## 名誉教授の称号授与

6月22日（火）に開かれた教育研究評議会で、東京大学名誉教授称号授与規則により、次の元教授80名に名誉教授の称号を授与することになった。

部局	氏名	担当講座等
大・法	奥脇 直也	実定法学講座
大・法	小早川 光郎	公法系講座
大・法	渡辺 浩	政治学講座
大・法	宮廻 美明	法実務系講座
大・医	新家 眞	感覚・運動機能医学講座
大・工	岡 芳明	原子炉工学講座
大・工	西郷 和彦	構造生命工学講座
大・工	長島 利夫	航空宇宙システム学講座

大・工	吉田 眞	附属工学教育推進機構
大・工	難波 和彦	建築計画学講座
大・工	市川 昌和	物理工学講座
大・工	森下 悦生	航空宇宙システム学講座
大・工	山地 憲治	電気工学原論講座
大・文	蔀 勇造	東洋史学講座
大・文	藤田 覺	日本史学講座
大・文	逸身 喜一郎	西洋古典学講座
大・文	今村 啓爾	考古学講座
大・文	竹内 整一	倫理学講座
大・文	上野 善道	言語学講座
大・文	松永 澄夫	哲学講座
大・文	末木 文美士	インド哲学仏教学講座
大・理	加藤 雅啓	進化多様性生物学講座
大・理	川島 隆幸	有機化学講座
大・理	酒井 英行	量子多体物理学講座
大・理	野本 憲一	天文学宇宙学講座
大・理	野津 憲治	附属地殻化学実験施設
大・農	林 良博	国際動物生産学講座
大・農	空閑 重則	生物素材科学講座
大・農	杉山 信男	応用生物学領域講座
大・農	吉川 泰弘	病態動物医科学講座
大・農	梶 幹男	附属演習林
大・農	横山 伸也	生物機械工学講座
大・農	小野 憲一郎	病態動物医科学講座
大・農	小野寺 節	高次生体制御学講座
大・農	阿部 啓子	生物機能化学講座
大・農	熊谷 進	比較動物医科学講座
大・農	藏田 憲次	生物システム工学講座
大・済	醍醐 聰	会計・財務講座
大・済	藤原 正寛	現代経済学講座
大・済	岩井 克人	経済理論講座
教養	兵頭 俊夫	附属教養教育開発機構
大・養	青木 誠之	言語科学基礎理論講座
大・養	柴 宜弘	地中海・イスラム地域文化講座
大・養	神野志 隆光	文化コンプレクシティ講座
大・養	丹羽 清	基礎システム学講座
大・養	菅原 正	物質設計学講座
大・養	下井 守	機能解析学講座
大・養	須藤 和夫	運動適応科学講座
大・養	今井 知正	科学技術基礎論講座
大・養	米谷 民明	自然構造解析学講座

大・養	山崎 泰規	物質計測学講座
大・養	若林 正文	アジア太平洋地域文化講座
大・育	衛藤 隆	身体教育学講座
大・育	小川 正人	学校開発政策講座
大・育	金子 元久	大学経営・政策講座
大・薬	柴崎 正勝	医薬化学講座
大・薬	佐藤 能雅	生体分子機能学講座
数理	森田 茂之	大域幾何学講座
数理	岡本 和夫	数理構造論講座
創域	吉田 恒昭	開発協力講座
創域	鳥海 光弘	複雑系実験講座
情理	南谷 崇	認識行動情報学講座
情理	竹内 郁雄	創造情報学講座
地震	金沢 敏彦	附属地震地殻変動観測センター
地震	佐野 修	附属地震地殻変動観測センター
地震	渡辺 秀文	附属火山噴火予知研究センター
地震	藤井 敏嗣	附属火山噴火予知研究センター
東洋	中里 成章	南アジア研究部門
東洋	関本 照夫	汎アジア研究部門
東洋	宮嶋 博史	東アジア研究部門
社研	小森田 秋夫	比較現代法部門
社研	工藤 章	比較現代経済部門
生研	山本 良一	附属サステイナブル材料国際研究センター
生研	藤森 照信	人間・社会系部門
史料	石上 英一	附属画像史料解析センター
史料	加藤 友康	古代史料部門
分生	徳田 元	分子機能・形成部門
分生	内宮 博文	分子機能・形成部門
物性	渡部 俊太郎	先端分光研究部門
海洋	宮崎 信之	附属海洋科学国際共同研究センター

平成 22 年度名誉教授称号授与者 80 名



情報分野最大の学会である情報処理学会（会員約 2 万人）の創立 50 周年記念全国大会が言語処理学会と共催の形で、3 月 8 日（月）から 12 日（金）までの五日間に渡り本郷キャンパスにおいて開催された。参加者総数は 7,150 人に上り、学会史上最大規模となった。民主党衆議院議員 鳩山由紀夫氏から祝辞（代読）を頂戴すると共に、本学濱田純一総長、女性初の ACM Turing 賞受賞者であるフラン・アレン氏（IBM Fellow EMERITA）、前総長小宮山宏氏（現三菱総研理事長）による基調講演を始め、クラウド、グリーン IT、次世代スパコン、情報爆発等 70 件にも及ぶ特別イベント企画が実施され、ならびに 1,770 件の一般講演、学生講演が、安田講堂を中心に工学部、法学部、理学部、経済学部、情報学環、御殿下記念館等本郷キャンパスの多くの会場にて実施された。

情報離れが問題視されている昨今、若手の理工学系技術者、研究者や高校生にも IT を身近に理解してもらおうと、創立 50 周年特別企画「今ドキッの IT @御殿下記念館 2010」と称して、御殿下記念館にて大規模デモ展示を開催した。22 にも上る我が国の代表的な研究機関や国家プロジェクトによる最新の成果のデモ展示は大変好評であった。本学の学部学生有志によるロボット競技、センサーを用いた次世代情報医療、IT を利用したエンタテインメント等の多彩なデモを行い、非常に多くの参加者に先端 IT システムを見るだけでなく体験できる場を提供できたことは極めて有意義であった。

安田講堂での招待講演、特別イベント企画はストーリーミング中継を行い、例えば「CGM の現在と未来」なる企画は、会場で行われたインターネット上の動画配信を会場定員と同程度の約 600 人が視聴するなど、学会大会のこれからの姿を感じさせるものとなった。また twitter による口コミからデモ展示翌日にはヨーロッパの研究者から問合せがあるなど、IT を駆使し全世界へ我国における最新の成果を発信できた。なお、本大会は本学喜連川優教授（生産技術研究所）が情報処理学会副会長として大会組織委員長を、萩谷昌己教授（情報理工学系研究科）、近山隆教授（工学系研究科）がそれぞれ実行委員長、副委員長を坂井修一教授（情報理工学系研究科）が 3 名のプログラム委員長の一人を務め、多くの本学教授ならびに学生が参画した。

最後になりますが、これだけの規模の大会を一週間にわたり成功の内に開催できましたことは、一重に大学本部ならびに各部局の多大なるご協力とご支援の賜物であり、改めて深く御礼申し上げます。



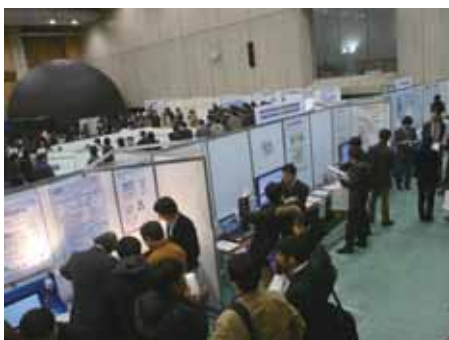
情報処理学会創立 50 周年記念  
全国大会立看板（正門前にて）



招待講演  
フラン・アレン博士（ACM Turing 賞受賞）



招待講演  
濱田純一総長



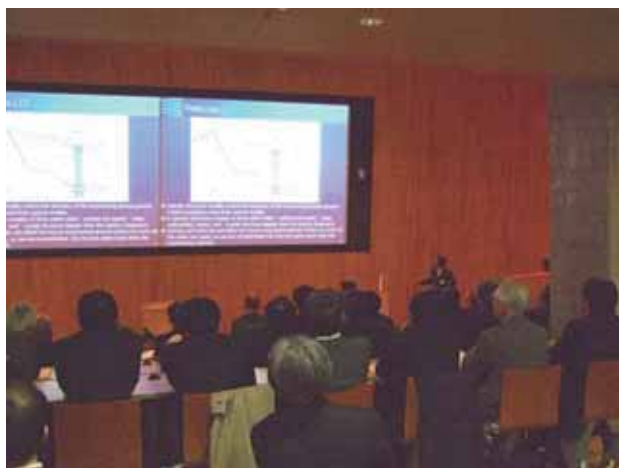
創立 50 周年特別企画  
「今ドキッの IT @ 御殿下記念館 2010」会場風景

地震研究所、大学院工学系研究科・工学部、生産技術研究所、大学院理学系研究科・理学部、情報学環  
部局  
東京大学シンポジウム「長周期地震動とその都市災害軽減」開催

3月17日（水）～18日（木）に情報学環・福武ホールにて、東京大学シンポジウム「長周期地震動とその都市災害軽減」（組織委員長：地震研究所・額田一起教授）が本学の国際学術交流助成事業として開催された。同ホールがほぼ満員となる参加者の前で、招待講演とパネルディスカッションが行われた。

初日は、地震研究所の平田直所長と文部科学省研究開発局地震・防災研究課の鈴木良典課長の開会挨拶に始まり、環太平洋の各地や欧州等を対象とした長周期地震動とそのハザードやリスクに関する招待講演が行われた。二日目は、高層ビルへの入力地震動としての長周期地震動やその実物大震動台実験に続き、長周期地震動に対する長大橋や埋め立て地盤の耐震安全に関する招待講演が行われた。その後のパネルディスカッションでは、長周期地震動とその都市災害軽減に関する各国の研究の現状と問題点について、特に理学と工学の連携の観点から討論が行われた。また、若手研究者の育成に関し、日米欧の大学院教育の比較等を通して意見交換が行われた。

本シンポジウムにより、多国間の理学工学連携や産学官交流に基づく国際共同研究基盤の構築がなされた。長周期地震動は頻繁に起こる自然現象ではないため、近代都市に対するその影響に関して未知の部分が多い。したがって、本学がこうした国際共同研究基盤を活用して、各国の研究者の英知を結集しなければならない課題であろう。



長周期地震動に関する講演





パネルディスカッション

医科学研究所

第37回医科学研究所創立記念シンポジウム開催

今年で37回目となる医科学研究所創立記念シンポジウムが6月1日（火）13時から医科学研究所講堂において、「プロテオームから疾患研究へ」というテーマで開催された。

本シンポジウムは、医科学研究所が1967年に伝染病研究所から改組されたのを記念して、1974年から毎年創立記念日の6月1日前後に開催されてきた。

清木元治所長の開会の辞に引き続き、本研究疾患プロテオミクスラボラトリー 尾山大明特任助教による「プロテオミクスが解き明かす生命システムの新たな全体像」、産業技術総合研究所バイオメディシナル情報研究センター細胞システム制御解析チーム 夏目徹チーム長による「プロテオミクス研究の新展開」、本研究疾患プロテオミクスラボラトリー 津本浩平教授による「医療展開を指向した蛋白質相互作用解析」、滋賀医科大学医学部腫瘍内科 醍醐弥太郎教授による「臨床プロテオミクスによるがん治療標的分子とバイオマーカーの探索」、最後に国立がん研究センター研究所化学療法部 山田哲司部長による「プロテオーム解析によるがんの診断と治療法の開発」について、40分ずつの講演が行われた。

講演会場の講堂は、今年も所内外から多くの聴講者を迎えて満席となり、本シンポジウムへの関心の高さが窺われた。

また、本シンポジウムに先立ち、前日の5月31日（月）13時30分から講堂を会場に、本研究所属の若手研究者による1分間スピーチ「フラッシュトーク」（研究成果発表）が昨年に引き続き開催された。若手研究者が熱心に研究成果報告を行うとともに、「研究成果ポスター発表会」が5月31日～6月1日の2日間、2号館講義室でフラッシュトークと連動する形で行われた。



講演を行う国立がん研究センター山田哲司化学療法部長



研究成果ポスター発表会場



ポスター発表会表彰式

大学院法学政治学研究科・法学部、大学院公共政策学教育部

留学生見学旅行を実施

6月3日（木）・4日（金）の2日間、法学政治学研究科・公共政策学教育部合同で留学生の草津温泉見学旅行を実施した。参加者は、留学生36名、引率の教職員5名の計41名であった。

集合はほぼ時間通りで、出発予定時刻9時に大型バスで本郷キャンパスを出発できた。

午前中は移動に費やし、12時すぎにようやく群馬県中之条町にある「自然と健康の郷・薬王園」に到着。指

導員のサポートを受けながらハンカチの草木染め体験をした。14時ごろ、ドライブインで遅い昼食をとり、草津に近づくと、あいにくの雨模様だった。急きょ、予定を変更し、「片岡鶴太郎美術館」を前倒しで見学した。

ホテルには予定通り16時半ごろ到着し、夕食までの時間、温泉に入ったり、部屋でのんびりくつろいだり、各自自由に過ごした。夕食は、種類の豊富なビュッフェで、留学生たちは思う存分食べ、満足した様子だった。

夕食後は、懇親会で恒例のチーム対抗ゲームを3つ行い、2時間ぐらい大いに盛り上がった。終了後、話をしたい人は二次会用の小さな宴会場に集い、温泉に入りたい人は、露天風呂のある温泉浴場へと向かって行った。

翌朝は、前日の天気とは打って変わって晴天だった。8時すぎにホテルを出発し、雪がまだ残る白根山を見学。エメラルドグリーンの水をたたえた美しい火口湖「湯釜」がくっきりと見えた。下山後、「草津温泉熱の湯・湯もみショー」を見学し、ほとんどの留学生が湯もみ体験をした。その後、「鬼押し出園」で昼食後、園内を自由散策した。

帰りの交通は順調で予定どおり17時ごろ大学に到着し、全員笑顔で解散した。

参加者に旅行のアンケートを取ったところ、印象に残ったことは、白根山・湯釜が一番多く、次に湯もみ体験と続いた。日本の美しい自然と文化に触れ、共通の体験を通じて親睦が深まり、楽しく有意義な時間を参加者全員で共有することができた。



白根山での集合写真



草木染め作品と共に



湯もみ体験する留学生たち

大学院農学生命科学研究科・農学部  
「水産学科創立100周年記念式典・シンポジウム」開催

農学部水産学科(改組により現在は水圏生物科学専攻)が明治43年4月の設置以来、ちょうど本年4月に100周年を迎えたことを記念して、6月5日(土)14時より、本学弥生講堂において、記念式典と記念シンポジウムが開催された。式典では、生源寺真一 農学生命科学研究科長や竹内俊郎 日本水産学会会長から祝辞が述べられた。事務主任として長きにわたり貢献いただいた方々への感謝状と記念品の贈呈も行なわれた。式典およびシンポジウム、祝賀会では、130名を上回る参加者があった。昭和14年卒のOBから学部学生に至るまでの幅広い世代が集い、創立100周年を祝うのに相応しい催しとなり、盛会のうちに幕を閉じた。閉会の後もしばらくは、参加者がなかなか帰途につこうとせず、宴の余韻を惜しみつつ三々五々、会場を後にした。本事業が成功裡に終わったことを受け、スタッフ一同、本専攻のさらなる発展を目指し決意を新たにした。

併せて、「東京大学農学部 水産学科の百年」と題した記念出版物と、寄稿文、研究業績、歴代の教職員・卒業生等一覧、写真集などを収めたDVDを発行した。また、本事業に寄せられた募金の残額は本専攻所属学生の海外における学会発表等に必要の旅費の援助に使用される。



参加者全員による記念撮影

OECD/JAPAN セミナー「保育者の専門性と園組織運営における質の向上」を開催

6月7日（月）、8日（火）の2日間、教育学研究科とOECD、文部科学省の共催で、「第13回OECD/JAPANセミナー」が国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟において開催された。世界23カ国から、250名を超える参加者があり、国内外の保育研究者、教育行政政策官、保育実践者、大学院生等がこれからの乳幼児保育政策に関して活発な意見交流を行なった。

イッシンガー OECD 教育政策局長、武藤芳照教育学研究科長、木曾功文部科学省国際統括官による挨拶に始まり、全体講演として、田熊美保 OECD 教育政策アナリストおよびロザベール OECD 教育政策課長、パスカル英国バーミンガム大学幼児教育センター所長、パーネット米国幼児教育研究所長、ノルウェーからのヤコブソン OECD 幼児教育会議議長、日本からは秋田喜代美本学教育学研究科教授、大谷啓介東宮侍従が講演を行なった。未来への公共投資としての保育政策への投資効果や保育の質向上のための保育者の資質向上のあり方に関して、国、自治体、園レベルでのあり方に関する検討がなされ子ども政策の重要性が議論された。また4分科会でパネルが行なわれ、スウェーデン、ベルギー、英国、韓国、中国、台湾、シンガポール、日本等から話題提供がなされ、園長のリーダーシップや研修のあり方、東アジア型保育の特質や地域の子育て支援など具体的な論点の検討がなされた。そして最後に、参加各国からの意見や感想が出され、小田豊独立行政法人特別支援総合教育研究所理事長、佐藤学本学教育学研究科教授、ロザベール OECD 教育政策課長らによって2日間のまとめが行われた。またその翌日に、海外からの訪問者に対しては、文京区立第一幼稚園の見学が実施された。本会議の成功は、6月21日、22日にパリで開催されたOECD幼児教育政策会議においても、OECD加盟国各国参加者に対し紹介がなされた。



基調講演を行なうロザベールOECD教育政策課長



小グループに分かれての討論

第1回超小型衛星シンポジウム開催

第1回超小型衛星シンポジウム（主催：東京大学、共催：次世代宇宙システム技術研究組合、NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム、株式会社 アクセルスペース）が6月10日（木）、11日（金）、浅野キャンパス・武田ホールにて開催され、300名を超える参加者が集まった。シンポジウム初日は中須賀真一工学系研究科教授＜内閣府最先端研究開発支援プログラムに採択された「日本発『ほどよし信頼性工学』を導入した超小型衛星による新しい宇宙開発・利用パラダイムの構築」プログラム（以降、本プログラム）の中心研究者＞の開会挨拶に始まり、海外9カ国からの超小型衛星開発状況の報告、超小型衛星の利用に関する講演、超小型衛星を用いた教育に関する講演、および参加者を交えての全体討論が行われた。シンポジウム二日目は、3月に開催される超小型衛星群によるミッションアイデアコンテストに関する告知を中心に講演が行われ、同コンテストのChairmanを務めるJerry Sellers氏（Teaching Science & Technology Inc.）よりルールの説明などが行われた。

一日目の中須賀真一教授の講演では、日本の強みである「超小型衛星」の技術力をさらに強化し、また大学・高専・企業がそれぞれの強みで参加できるオールジャパンの研究開発・利用体制を構築することで、日本が超小型衛星における世界一の地位を確かなものとする、本プログラムの全体構想について発表が行われた。全体討論では、「衛星開発工程の省力化・低コスト化」と「衛星の新規利用者・利用法開拓」という、超小型衛星の産業化には非常に重要な2つのテーマに関して、来場者の方を交えて議論が行われ、活発な意見交換が行われた。二日目の講演の中心テーマとなったミッションアイデアコンテストとは、全世界を対象に超小型衛星のコンステレーションミッション（複数の衛星を協働させて行うミッション）に関するコンペティションを開催し、超小

型衛星を用いたシステムに関するアイデア創出を刺激することを目的としたものである。同コンテストの最終審査は来年3月に行われる第二回超小型衛星シンポジウムにて発表形式で行われる。

講演・全体討論で紹介されたテーマに共通しているのは、超小型衛星の開発研究・利用体制に関する話である。中でも本プログラムの特徴として、開発研究に力を入れるとともに、利用に関しても大きく力を注ぐことを強く訴えた。超小型衛星の特徴である「安価さ」「迅速さ」を活かすような新しい衛星利用形態を考えることで、超小型衛星のみならず宇宙産業が活発化することを狙う。



中須賀真一教授による講演の様子



会場の様子

	大学院工学系研究科・工学部、大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (COREF)
	東大生、小学校で工学の特別授業

大学院工学系研究科工学教育推進機構 (CIEE) では工学理解促進プロジェクトを工学部、大学院工学系研究科の共通講義の一環として平成 21 年度冬学期から開始し、本年度も工学系大学生による小学生への特別授業を実施している (担当: 鈴木真二教授、三木功次非常勤講師 (JST))。これは、大学生が、小学校で工学の特別授

業を行うものである。工学のなかで、そして社会のなかで小学校の理科教育がどの様に活かされるかを伝え、理科への関心を高めるのが大きな目的だが、科学技術の本質を考え、科学技術を一般の人たちにも説明できるコミュニケーション能力を高める機会を大学生にも与えることにこのプロジェクトの真の狙いがある。大学生の習得してきた知識の多くは受験のための暗記によるものが多く、科学の本質を熟考する機会が少ない。小学生へ説明することで、そのことに気付いて欲しいからである。小学生への教育方法、教育効果の分析の指導を得るために、大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (COREF) とも連携し、小学校での実施を実現するために NPO (センス・オブ・ワンダー) の協力も得ている。

今学期も、学部生から修士・博士大学院生が各専門分野からプロジェクトに参加し、3チームに分かれて特別授業に向けて準備を進めてきた。今回のテーマは「『炎』のチャレンジャー～燃える科学～」, 「スライムが飲み込んだ～そこには見えない坂がある～」, 「めちゃ2ユレてるッ!～揺れの力を感じよう～」という、「燃焼」「流れ」「振動」を題材にした小学生にはチャレンジングな内容だったが、大学生にとっては大学で学ぶ工学の基礎であり、小学生にその魅力を伝えたいとの思いがあった。さまざまな実験を準備して6月12日 (土)、埼玉県戸田東小学校の授業参観日に、大学生チームは3つのクラスで90分の授業を実施した。初めて相手にする小学生の反応を見ながら、時間内で予定をこなすのは相当難しかったようだが、小学生は活発に応え、父母の方々も最後まで見学して下さった。小学生は大学生の授業から何を感じ取ったのだろうか。事前、事後のアンケート、授業中のノートの記載、授業の映像と音声の記録を全て残している。その科学的な分析結果を踏まえて、さらに内容を改善した2回目の授業を予定している。最後に、校長先生にも加わって頂き、次回に向けたミーティングを実施し、この日の特別授業活動を終了した。



小学校特別授業の前に自己紹介する大学生



揺れを調べる実験道具



授業のまとめの説明を熱心に聞き入る子供たち

大学院教育学研究科・教育学部

研究倫理教育を話題に三部局連携のFDの会を開催

東京大学 130 年以上の歴史始まって以来の博士学位授与取り消しという事件が発生し、研究論文等の執筆に関わる剽窃・盗用等の不正行為を防止し、研究倫理教育の徹底を図る取り組みが全学的になされている。

教育学研究科は、年 4 回実施している FD (Faculty Development) の会の今年度第 1 回のテーマに「学生への論文・レポートの執筆の指導・教育」を掲げ、6 月 23 日 (水) に、赤門総合研究棟 200 番教室で FD の会を開催した。

話題提供者として、学生への教育・啓発資料を作成する等して研究倫理教育についての先進的な取り組みをしている大学院総合文化研究科・教養学部より山影進研究科長と菅原克也教授、大学院人文社会系研究科・文学部より小松久男研究科長と武川正吾副研究科長に登場いただいた。



講師として取り組みを述べる山影総合文化研究科長

それぞれの研究科の学生教育の現状と経験を踏まえつつ、「他人の言葉を自分の言葉と詐称するのはいけない」ことを指導・教育する必要性と共に、学生が萎縮することないよう「力を信じたい」という願いを抱えていること等、貴重な意見・助言をいただいた。



講師として取り組みを述べる小松人文社会系研究科長

当日は、本部から教育担当の佐藤慎一理事、鈴木敏之副理事、矢野由美教育・学生支援部長をはじめ学務課の職員、萩谷昌己情報理工学系研究科長他、学内の複数部局の教職員の皆さんも参加していただき、総勢 70 名あまりの会となった。



質疑応答が行われる会場の様子

教育学研究科の FD の会に、総合文化研究科と人文社

会系研究科に協力していただき、三部局連携の行事となった。引き続き行われた懇談会の場でも、種々意見、情報交換が盛んになされ、部局を超えた教職員の輪が広がり深まるという副次効果もみられた。

今回は、9月29日(水)にFD+SD(Staff Development)の形で「ハラスメントを防ぐために」と題して、ハラスメント相談所の相談員に加えて研究科顧問弁護士や精神保健の専門家等も交えての会を企画・準備している。

## キャンパス ニュース



### 本部キャリアサポート課

キャンパス

### 平成21年度学部卒業生及び大学院 修了者の就職状況

学部卒業生は2,983人、そのうち就職者は915人(30.7%)、非就職者は2,068人(69.3%)。非就職者の大半が大学院進学者(1,585人)で、卒業生数に対する大学院進学者数の比率は53.1%と就職者数の比率30.7%を上回っている。

大学院修士課程修了者は2,982人、そのうち就職者は1,743人(58.5%)、非就職者は1,239人(41.5%)。非就職者のうち大学院博士課程への進学者等は908人である。

大学院専門職学位課程修了者は435人、そのうち就職者は108人(24.8%)、非就職者は327人(75.2%)。

大学院博士課程修了者(満期退学者を含む)は1,573人、そのうち就職者は591人(37.6%)、非就職者は982人(62.4%)。

なお、日本学術振興会の特別研究員等是非就職者としてカウントしてある。

- 表1-1 学部別卒業生の就職状況
- 表1-2 修士課程修了者の就職状況
- 表1-3 専門職学位課程修了者の就職状況
- 表1-4 博士課程修了者の就職状況
- 表2-1 学部卒業生の産業別就職者数
- 表2-2 修士課程修了者の産業別就職者数
- 表2-3 専門職学位課程修了者の産業別就職者数
- 表2-4 博士課程修了者の産業別就職者数
- 表3 就職状況の推移(過去10年間)
- 参考 産業別就職者数の推移(平成18~21年度)

### 読者投稿写真

#### 春、ひっそりと咲く



浅野キャンパスにて、シロバナタンポポとカントウタンポポ、このすぐ近くにはウラシマソウがひっそりと生えていました。これらの花は小石川の理学系研究科附属植物園でも観察できるそうですが、あまり身近にはないので目に留まりました。(H21年4月9日撮影)



(大学院理学系研究科 技術職員 市村康治さん)

表 1-1 平成 21 年度学部別卒業者の就職状況 平成 22 年 5 月 1 日現在

区分	学部別										合計	比率 (%)	昨年度比率 (%)		
	法学部	経済学部	文学部	教育学部	教養学部	理学部	工学部	農学部		医学部				薬学部	
								農学	獣医学	医学	健康・看護				
学部卒業者数 (A)	409 (107)	359 (64)	291 (100)	102 (39)	141 (50)	277 (30)	925 (90)	244 (60)	28 (9)	103 (26)	26 (16)	78 (16)	2,983 (607)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
就職者数 (B)	150 (47)	274 (47)	176 (60)	63 (24)	61 (22)	15 (3)	111 (17)	46 (10)	11 (5)	2 (1)	6 (5)		915 (241)	30.7 (39.7)	32.2 (39.0)
その他 (A-B)	259 (60)	85 (17)	115 (40)	39 (15)	80 (28)	262 (27)	814 (73)	198 (50)	17 (4)	101 (25)	20 (11)	78 (16)	2,068 (366)	69.3 (60.3)	67.8 (61.0)
学部再入学等	3	5 (1)			1 (1)	4	2 (1)	3	1		2 (2)	2	23 (5)	0.8 (0.8)	0.9 (1.0)
大学院進学	101 (23)	48 (9)	69 (22)	32 (13)	68 (22)	246 (25)	738 (58)	181 (47)	13 (4)		15 (8)	74 (15)	1,585 (246)	53.1 (40.5)	51.3 (40.6)
臨床研修医										78 (21)			78 (21)	2.6 (3.5)	2.3 (1.6)
上記以外	155 (37)	32 (7)	46 (18)	7 (2)	11 (5)	12 (2)	74 (14)	14 (3)	3	23 (4)	3 (1)	2 (1)	382 (94)	12.8 (5.5)	13.3 (17.9)

( ) 内は、女子を示し内数である。

表 1-2 平成 21 年度大学院 (修士課程) 研究科別修了者の就職状況 平成 22 年 5 月 1 日現在

区分	研究科別														合計	比率 (%)	昨年度比率 (%)	
	人文社会系	教育学	法学政治学	法学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学生命科学	医学系	薬学系	数理科学	新領域創成科学研究工学系	情報学				学際情報
										医科学	保健学							
課程修了者数 (A)	121 (54)	74 (37)	17 (8)	333 (68)	46 (11)	210 (81)	947 (114)	289 (90)	18 (7)	52 (38)	99 (29)	33	465 (119)	196 (18)	82 (36)	2,982 (710)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
就職者数 (B)	26 (12)	21 (8)	5 (2)	160 (41)	79 (32)	682 (79)	682 (79)	182 (52)	2 (0)	27 (23)	43 (17)	10	310 (72)	128 (12)	40 (14)	1,743 (372)	58.5 (52.4)	58.8 (50.2)
その他 (A-B)	95 (42)	53 (29)	12 (6)	173 (27)	18 (3)	131 (49)	265 (35)	107 (38)	16 (7)	25 (15)	56 (12)	23	155 (47)	68 (6)	42 (22)	1,239 (338)	41.5 (47.6)	41.2 (49.8)
学部再入学等		2 (1)		2 (1)		4 (2)	1	1								10 (4)	0.3 (0.3)	0.1 (0.3)
博士課程進学等	76 (34)	39 (21)	8 (3)	153 (21)	13 (3)	100 (34)	132 (8)	84 (28)	15 (6)	21 (13)	51 (12)	23 (0)	117 (30)	46 (4)	30 (16)	908 (233)	30.4 (32.8)	32.0 (37.8)
上記以外	19 (8)	12 (7)	4 (3)	18 (5)	5 (13)	27 (13)	132 (27)	22 (10)	1 (1)	4 (2)	5	0	38 (17)	22 (2)	12 (6)	321 (101)	10.8 (14.2)	9.1 (11.8)

( ) 内は、女子を示し内数である。

表1-3 平成21年度大学院(専門職学位課程)研究科別修了者の就職状況 平成22年5月1日現在

区分	研究科別	法学政治学		工学系		医学系		公共政策学	合計	比率(%)	昨年度比率(%)
		法曹養成	297 (104)	原子力	14 (1)	公共健康	37 (25)				
課程修了者数(A)		297 (104)		14 (1)		37 (25)		87 (26)	435 (156)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
就職者数(B)			13 (1)		21 (12)		74 (21)		108 (34)	24.8 (21.8)	27.6 (24.2)
その他(A-B)		297 (104)	1		16 (13)		13 (5)		327 (122)	75.2 (78.2)	72.4 (75.8)
学部再入学等					1 (1)				1 (1)	0.2 (0.6)	0.0 (0.0)
他の博士課程進学等					9 (8)		5 (2)		14 (10)	3.2 (6.4)	2.6 (5.4)
上記以外		297 (104)	1		6 (4)		8 (3)		312 (111)	71.7 (71.2)	69.8 (70.5)

( )内は、女子を示し内数である。

表1-4 平成21年度大学院(博士課程)研究科別修了者の就職状況 平成22年5月1日現在

区分	研究科別	人文社会系	教育学	法学政治学	経済学	総合文化	理学系		工学系	農学生命科学		獣医学	医学系		保健学	薬学系	数学科学	新領域創成科学	情報理工学系	学際情報	合計	比率(%)	昨年度比率(%)
							理学系	文化		農学	生命科学		医学	獣医学									
課程修了者数(A)		154 (62)	34 (16)	25 (13)	35 (7)	186 (75)	178 (38)	279 (49)	135 (49)	20 (5)	188 (50)	39 (23)	44 (4)	21 (1)	149 (38)	58 (4)	28 (8)	1,573 (442)	100.0 (100.0)	100.0 (100)			
就職者数(B)		39 (17)	7 (4)	6 (5)	11 (1)	54 (19)	47 (10)	106 (19)	47 (18)	4 (2)	99 (26)	20 (11)	31 (3)	2 (1)	74 (17)	27 (1)	17 (5)	591 (158)	37.6 (35.7)	45.9 (36.4)			
その他(A-B)		115 (45)	27 (12)	19 (8)	24 (6)	132 (56)	131 (28)	173 (30)	88 (31)	16 (3)	89 (24)	19 (12)	13 (1)	19 (1)	75 (21)	31 (3)	11 (3)	982 (284)	62.4 (64.3)	54.1 (63.6)			
学部/大学院再入学等		1	3 (1)			1	5 (2)	1			2			2				15 (3)	1.0 (0.7)	2.2 (2.3)			
他の臨床研修医												1						1	0.1 (0.6)	0.6 (0.6)			
上記以外		114 (45)	24 (11)	19 (8)	24 (6)	131 (56)	126 (26)	172 (30)	88 (31)	16 (3)	86 (24)	19 (12)	13 (1)	17 (1)	75 (21)	31 (3)	11 (3)	966 (281)	61.4 (63.6)	51.7 (61.0)			

( )内は、女子を示し内数である。博士課程満期退学を含む。



表2-1 平成21年度学部卒業者の産業別就職者数 平成22年5月1日現在

産業別	学部別										合計	比率(%)	
	法学部	経済学部	教育学部	教養学部	理学部	工学部	農学部		医学部	薬学部			
	法学	経済	教育	教養	理学	工学	農学	獣医学	医学	健康・看護	薬学		
農・林・漁業	1						4 (1)					5 (1)	0.5 (0.4)
鉱業、採石・採集業			1	1 (1)								3 (1)	0.3 (0.4)
建設業		1				6 (2)						11 (3)	1.2 (1.2)
製造業	12 (3)	43 (6)	6 (3)	6 (2)		23 (2)	5 (1)	5 (2)				126 (26)	13.8 (10.8)
電気・ガス・熱供給・水道業	2 (1)	10 (1)	2 (1)	5 (1)		3 (1)	1					24 (6)	2.6 (2.5)
情報通信業	16 (6)	21 (4)	6 (2)	7 (2)	4 (2)	21 (4)	4 (1)			1 (1)		135 (40)	14.8 (16.6)
運輸業、郵便業	7 (1)	9 (1)	4 (1)	6 (2)		7 (3)	3 (1)					37 (10)	4.0 (4.1)
卸売・小売業	7 (3)	16 (4)	9 (3)	5 (1)		7 (2)	4					48 (13)	5.2 (5.4)
金融業、保険業	43 (14)	77 (11)	8 (3)	12 (4)	5	8	13 (1)	2		1 (1)		188 (40)	20.5 (16.6)
不動産業、物品賃貸業	1	6 (1)	1 (1)	1 (1)		4 (1)	1					15 (4)	1.6 (1.7)
学術研究、専門技術サービス業	3 (2)	44 (13)	1 (1)	6 (2)	1 (1)	9	1					82 (24)	9.0 (10.0)
宿泊業、飲食サービス業			1			2 (1)						5 (2)	0.5 (0.8)
生活関連サービス業、娯楽業	2 (1)	2 (1)	1 (1)				1					6 (3)	0.7 (1.2)
教育、学習支援業	2 (1)	3 (1)	7 (3)	3 (2)	4	1	1		2 (1)	3 (2)		34 (13)	3.7 (5.4)
医療、福祉		1	1 (1)	1 (1)								8 (5)	0.9 (2.1)
複合サービス事業	1	3	1				1 (1)			1 (1)		7 (2)	0.8 (0.8)
サービス業	2 (2)	3 (1)	3 (2)		1	2	1 (1)					15 (7)	1.6 (2.9)
公務	49 (13)	37 (3)	17 (8)	7 (2)		12 (1)	5 (2)	3 (2)				148 (37)	16.2 (15.4)
上記以外のもの	2	4 (1)	3	1 (1)		5	1 (1)	1				18 (4)	2.0 (1.7)
合計	150 (47)	274 (47)	176 (60)	63 (24)	61 (22)	15 (3)	111 (17)	46 (10)	11 (5)	2 (1)	6 (5)	915 (241)	100 (100.0)

( ) 内は、女子を示し内数である。  
産業別区分は、経済産業省「日本標準産業分類」による。

表2-2 平成21年度修士課程修了者の産業別就職者数 平成22年5月1日現在

産業別	研究科別	人文 社会系	教育学	法学 政治学 総合法政	経済学	総合文化	理学系	工学系		農学生命 科学	医学系		薬学系	数理科学	新領域 創成科学	情報理工 学系	学際情報	合計	比率(%)
								工学系	理学系		農学	医科学							
農・林・漁業								2 (2)										4 (2)	0.2 (0.5)
鉱業、採石・採集業							1 (1)	1							3			5 (1)	0.3 (0.3)
建設業							2 (1)	40 (8)	4						14 (5)	1		61 (14)	3.5 (3.8)
製造業		2 (1)	1 (1)		3 (2)	21 (5)	64 (18)	325 (39)	78 (24)	1	3 (2)	27 (14)			121 (23)	68 (5)	6	720 (134)	41.3 (36.0)
電気・ガス・熱供給・水道業		1 (1)					2	32 (4)	6 (1)						9 (3)	1		51 (9)	2.9 (2.4)
情報通信業		3 (3)				25 (11)	40 (8)	44 (4)	17 (5)		3 (3)	4			40 (9)	37 (4)	14 (5)	230 (52)	13.2 (14.0)
運輸業、郵便業					1		1	30 (3)	3 (1)						18 (1)	2 (1)		55 (6)	3.2 (1.6)
卸売・小売業		1			1 (1)	1 (1)	4 (1)	23 (1)	10 (2)			1			7			48 (6)	2.8 (1.6)
金融業、保険業		2	1	1	12 (3)	6 (2)	13 (3)	44 (3)	18 (2)					6	16 (1)	12 (1)	3 (1)	134 (16)	7.7 (4.3)
不動産業、物品賃貸業								5	2						2 (1)			9 (1)	0.5 (0.3)
学術研究、専門技術サービス業		4 (1)	1 (1)	2 (1)	1	6 (3)	14 (5)	64 (9)	7 (5)		3 (3)	8 (2)			17 (10)	4 (1)	6 (2)	137 (43)	7.9 (11.6)
宿泊業、飲食サービス業		1						1	1						1			3	0.2
生活関連サービス業、娯楽業		6 (3)	13 (5)	1	2	5 (3)	5 (1)	6	2		1				2		5	12	0.7
医療、福祉						2 (1)											2 (2)	48 (15)	2.8 (4.0)
複合サービス事業		1 (1)						3	1						7 (3)	1	4 (4)	17 (7)	1.0 (1.9)
サービス業		3	2	1 (1)	5	10 (5)	12 (3)	41 (6)	15 (4)		2 (2)	3 (1)			11 (3)			34 (11)	2.0 (3.0)
公務		2 (2)	2 (1)		1 (1)	2		8 (1)	9 (2)						18 (3)	1		114 (25)	6.5 (6.7)
上記以外のもの		26 (12)	21 (8)	5 (2)	28 (8)	79 (32)	160 (41)	682 (79)	182 (52)	2	27 (23)	43 (17)	10		310 (72)	128 (12)	40 (14)	1,743 (372)	100 (100.0)

( ) 内は、女子を示し内数である。  
産業別区分は、経済産業省「日本標準産業分類」による。

表 2-3 平成 20 年度専門職学位課程修了者の産業別就職者数 平成 22 年 5 月 1 日現在

産業別	研究科別		法学政治学		工学系		医学系		公共政策学		合計	比率 (%)
	法学政治学	法曹養成	原子力	工学系	公共健康	公共政策学	公共健康	公共政策学	公共健康			
農・林・漁業												
鉱業、採石・採集業												
建設業												
製造業			3						3 (1)		6 (1)	5.6 (2.9)
電気・ガス・熱供給・水道業			6						9 (3)		6 (3)	5.6 (8.8)
情報通信業									3		3	2.8
運輸業、郵便業									3 (1)		3 (1)	2.8 (2.9)
卸売・小売業									13 (3)		13 (3)	12.0 (8.8)
金融業、保険業												
不動産業、物品賃貸業									6 (4)		6 (4)	8.3 (20.6)
学術研究、専門技術サービス業												
宿泊業、飲食サービス業									2 (1)		2 (1)	2.8 (5.9)
生活関連サービス業、娯楽業									12 (4)		12 (4)	11.1 (11.8)
教育、学習支援業												
医療、福祉												
複合サービス事業												
サービス業												
公務					4 (1)				30 (7)		38 (12)	35.2 (35.3)
上記以外のもの									6 (1)		6 (1)	5.6 (2.9)
合計	0 (0)	0 (0)	13 (1)		4 (4)				74 (21)		108 (34)	100 (100)

( ) 内は、女子を示し内数である。  
産業別区分は、経済産業省「日本標準産業分類」による。

表 2-4 平成 21 年度博士課程修了者の産業別就職者数 平成 22 年 5 月 1 日現在

産業別	研究科別	人文社会系		法学政治学		経済学		総合文化		理学系		工学系		農学生命科学		医学系		薬学系		数理科学		新領域創成科学		情報理工学系		学際情報		合計	比率 (%)
		人文	社会系	法学	政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学	生命科学	医学	保健学	薬学系	数理科学	新領域創成科学	情報理工学系	学際情報											
農・林・漁業																											1	0.2	
鉱業、採石・採集業																													
建設業																													
製造業																													
電気・ガス・熱供給・水道業																													
情報通信業																													
運輸業、郵便業																													
卸売・小売業																													
金融業、保険業																													
不動産業、物品賃貸業																													
学術研究、専門技術サービス業																													
宿泊業、飲食サービス業																													
生活関連サービス業、娯楽業																													
教育、学習支援業																													
医療、福祉																													
複合サービス事業																													
サービス業																													
公務																													
上記以外のもの																													
合計	39 (17)	7 (4)	6 (5)	11 (1)	54 (19)	47 (10)	106 (19)	47 (18)	4 (2)	99 (26)	20 (11)	31 (3)	2														591 (158)	100 (100)	

( ) 内は、女子を示し内数である。  
博士課程満期退学を含む。  
産業別区分は、経済産業省「日本標準産業分類」による。

表3 就職状況の推移（過去10年）

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
学部卒業者数	3,428	3,407	3,380	3,416	3,250	3,298	3,264	3,228	3,093	2,983
就職者数	1,176	1,111	1,103	953	948	1,069	1,120	1,071	997	915
卒業者数に対する就職者数の比率（％）	34.3	32.6	32.6	27.9	29.2	32.4	34.3	33.2	32.2	30.7
非就職者数	2,252	2,296	2,277	2,463	2,302	2,229	2,144	2,157	2,096	2,068
卒業者数に対する非就職者数の比率（％）	65.7	67.4	67.4	72.1	70.8	67.6	65.7	66.8	67.8	69.3
修士課程修了者数	2,470	2,482	2,673	2,711	2,719	2,732	2,865	2,884	2,933	2,982
就職者数	1,203	1,213	1,368	1,334	1,380	1,503	1,665	1,673	1,725	1,743
修了者数に対する就職者数の比率（％）	48.7	48.9	51.2	49.2	50.8	55.0	58.1	58.0	58.8	58.5
非就職者数	1,267	1,269	1,305	1,377	1,339	1,229	1,200	1,211	1,208	1,239
修了者数に対する非就職者数の比率（％）	51.3	51.1	48.8	50.8	49.2	45.0	41.9	42.0	41.2	41.5
専門職学位課程修了者数						271	380	399	427	435
就職者数						82	92	112	118	108
修了者数に対する就職者数の比率（％）						30.3	24.2	28.1	27.6	24.8
非就職者数						189	288	287	309	327
修了者数に対する非就職者数の比率（％）						69.7	75.8	71.9	72.4	75.2
博士課程修了者数	1,223	1,388	1,371	1,532	1,458	1,547	1,619	1,575	1,613	1,573
就職者数	599	635	591	586	537	631	567	723	727	591
修了者数に対する就職者数の比率（％）	49.0	45.7	43.1	38.3	36.8	40.8	35.0	45.9	45.1	37.6
非就職者数	624	753	780	946	921	916	1,052	852	886	982
修了者数に対する非就職者数の比率（％）	51.0	54.3	56.9	61.7	63.2	59.2	65.0	54.1	54.9	62.4

参考 学部卒業者及び大学院修了者の産業別就職者数の推移（平 18 年度～平 21 年度）

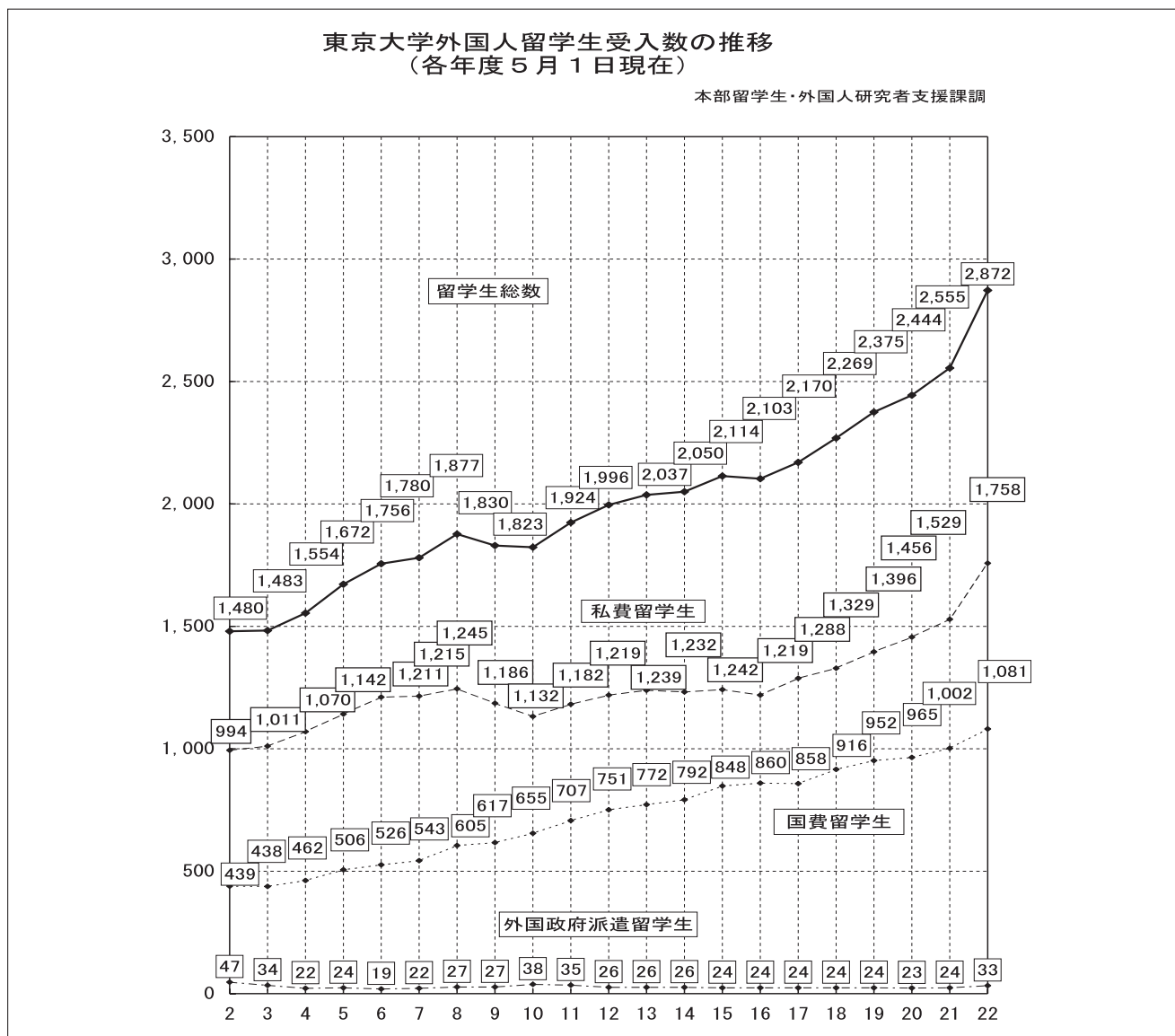
		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
農・林・漁業	学部		1 (1)	1 (1)	5 (1)
	修士	3 (1)			4 (2)
	専門職学位				
	博士				1
鉱業	学部	5	1	1	3 (1)
	修士	7 (1)	2	2	5 (1)
	専門職学位				
	博士	1			
建設業	学部	13 (3)	12 (3)	12 (3)	11 (3)
	修士	59 (11)	64 (14)	64 (14)	61 (14)
	専門職学位		1	1	
	博士	5 (1)	9 (1)	9 (1)	9 (1)
製造業	学部	153 (33)	164 (44)	164 (44)	126 (26)
	修士	710 (112)	747 (132)	747 (132)	720 (134)
	専門職学位	6 (1)	8 (1)	8 (1)	6 (1)
	博士	151 (27)	127 (15)	127 (15)	129 (23)
電気・ガス・熱供給・水道業	学部	21 (4)	17 (2)	17 (2)	24 (6)
	修士	39 (6)	37 (3)	37 (3)	51 (9)
	専門職学位	7	7	7	6
	博士	1	4	4	5
情報通信業	学部	159 (46)	151 (49)	151 (49)	135 (40)
	修士	210 (29)	192 (37)	192 (37)	230 (52)
	専門職学位	7 (4)	5 (1)	5 (1)	9 (3)
	博士	24	23	23	25 (5)
運輸業	学部	38 (4)	28 (5)	28 (5)	37 (10)
	修士	46 (8)	43 (4)	43 (4)	55 (6)
	専門職学位		1	1	3
	博士		2	2	
卸売・小売業	学部	66 (21)	80 (24)	80 (24)	48 (13)
	修士	39 (4)	44 (7)	44 (7)	48 (6)
	専門職学位	1	3	3	3 (1)
	博士	6 (3)	1 (1)	1 (1)	
金融・保険業	学部	280 (54)	263 (58)	263 (58)	188 (40)
	修士	159 (26)	172 (20)	172 (20)	134 (16)
	専門職学位	16 (7)	17 (7)	17 (7)	13 (3)
	博士	13 (2)	16 (2)	16 (2)	8 (1)
不動産業	学部	15 (2)	20 (6)	20 (6)	15 (4)
	修士	12 (2)	14 (6)	14 (6)	9 (1)
	専門職学位	2	2 (1)	2 (1)	
	博士		1 (1)	1 (1)	
飲食店・宿泊業	学部	2 (1)			5 (2)
	修士	2 (1)	1	1	3
	専門職学位	1			
	博士				
医療・福祉	学部	2 (2)	6 (3)	6 (3)	8 (5)
	修士	5 (4)	12 (8)	12 (8)	23 (17)
	専門職学位		3 (1)	3 (1)	12 (4)
	博士	72 (28)	62 (22)	62 (22)	72 (18)
教育・学習支援業	学部	21 (8)	22 (10)	22 (10)	34 (13)
	修士	46 (14)	36 (15)	36 (15)	48 (15)
	専門職学位	5	5 (2)	5 (2)	3 (2)
	博士	163 (45)	240 (52)	240 (52)	197 (64)
複合サービス事業	学部	2	4 (1)	4 (1)	7 (2)
	修士	33 (4)	24 (5)	24 (5)	17 (7)
	専門職学位	2			
	博士	7 (1)	178 (46)	178 (46)	4 (2)
サービス業 (学術研究・技術、生活関連、サー ビス)	学部	182 (57)	143 (40)	143 (40)	103 (34)
	修士	172 (59)	186 (54)	186 (54)	183 (54)
	専門職学位	16 (5)	17 (5)	17 (5)	9 (7)
	博士	90 (24)	12 (5)	12 (5)	90 (30)
公務	学部	137 (34)	146 (35)	146 (35)	148 (37)
	修士	104 (25)	56 (11)	56 (11)	114 (25)
	専門職学位	26 (7)	38 (9)	38 (9)	38 (12)
	博士	24 (3)	22 (5)	22 (5)	33 (10)
上記以外のもの	学部	24 (6)	13 (4)	13 (4)	18 (4)
	修士	19 (4)	43 (14)	43 (14)	38 (13)
	専門職学位	3	5 (3)	5 (3)	6 (1)
	博士	10 (2)	26 (10)	26 (10)	18 (4)
合 計	学部	1,120 (275)	1,071 (285)	1,071 (285)	915 (241)
	修士	1,665 (311)	1,673 (330)	1,673 (330)	1,743 (372)
	専門職学位	92 (24)	112 (30)	112 (30)	108 (34)
	博士	567 (136)	723 (160)	723 (160)	591 (158)

( ) 内は、女子を示し内数である。



平成 22 年度外国人学生数—国費外国人留学生数 1,081 人、私費外国人留学生数 1,758 人  
外国政府派遣留学生数 33 人、その他の外国人学生数（在日外国人学生数）282 人—

本学では、毎年 5 月と 11 月の年 2 回、同月 1 日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度 5 月 1 日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、本年 5 月 1 日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。



### 全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生 (人)	C/A 比 率	平成 21 年度 比 率
学部レベル	14,300	13,817	296	2.07%	1.96%
大学院レベル	14,553	11,832	2,576	17.70%	15.86%
計	28,853	25,649	2,872	9.95%	8.96%

- ※全学生数欄には「その他の外国人学生」（在日外国人学生）を含む。
- ※学部レベル学生数（全学生数及び外国人留学生数）には、学部特別聴講学生 29 名を含む。
- ※大学院レベル学生数（全学生数）には、大学院特別聴講学生 13 名及び大学院科目等履修生 49 名を含み、（外国人留学生数）には大学院特別聴講学生 13 名を含む。
- ※研究所に所属する研究生 28 名は大学院レベル学生数（全学生数）に含め、そのうち外国人研究生 12 名は、（外国人留学生数）にも含む。
- ※比率欄の数は四捨五入。

平成 22 年度 外国人学生数

平成 22 年 5 月 1 日現在

区 分	学部				大学院								研究所等		合 計			
	学生		研究生等		修士課程		専門職 学位課程		博士課程		外国人 研究生等		大学院 研究生				研究生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国費 (a)	78	39	0	0	162	116	2	2	323	194	92	73	0	0	0	0	657	424
	117		0		278		4		517		165		0		0		1,081	
外国政府派遣 タイ	3	4	0	0	2	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	8	6
	7		0		3		0		4		0		0		0		14	
外国政府派遣 マレーシア	1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	1		0		1		0		3		0		0		0		5	
外国政府派遣 シンガポール	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
	4		0		0		0		0		0		0		0		4	
外国政府派遣 韓国	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0
	9		0		0		0		0		0		0		0		9	
外国政府派遣 アラブ首長国連邦	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	1		0		0		0		0		0		0		0		1	
計 (b)	17	5	0	0	3	1	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	26	7
	22		0		4		0		7		0		0		0		33	
私費 (c)	28	32	23	23	284	233	5	9	385	325	151	135	13	4	4	4	893	765
	60		46		517		14		710		286		17		8		1,658	
小計 (d) ((a)+(b)+(c)) (在留資格「留学」の者)	123	76	23	23	449	350	7	11	714	520	243	208	13	4	4	4	1,576	1,196
	199		46		799		18		1,234		451		17		8		2,772	
私費 (e) (在留資格「留学」以外の者)	32	19	0	0	3	5	0	0	16	9	5	7	0	0	4	0	60	40
	51		0		8		0		25		12		0		4		100	
外国人留学生合計 (f) ((d)+(e))	155	95	23	23	452	355	7	11	730	529	248	215	13	4	8	4	1,636	1,236
	250		46		807		18		1,259		463		17		12		2,872	
永住者等 (g)	111	25	1	0	51	20	4	2	35	27	3	1	0	2	0	0	205	77
	136		1		71		6		62		4		2		0		282	
外国人学生 総計 (f+g)	266	120	24	23	503	375	11	13	765	556	251	216	13	6	8	4	1,841	1,313
	386		47		878		24		1,321		467		19		12		3,154	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成 22 年 5 月 1 日現在

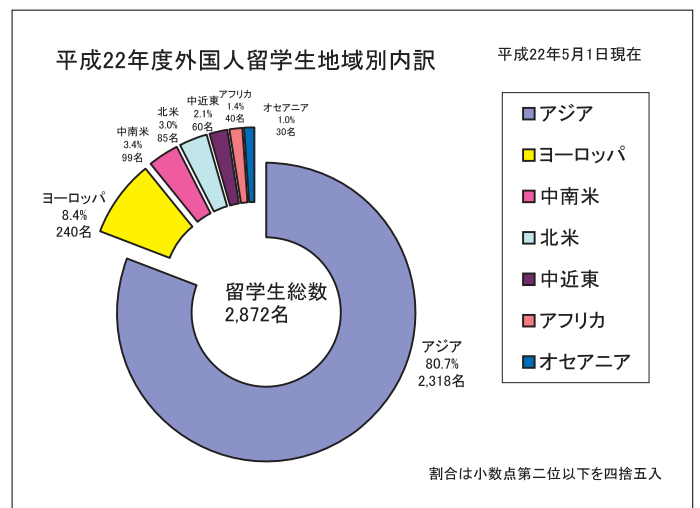
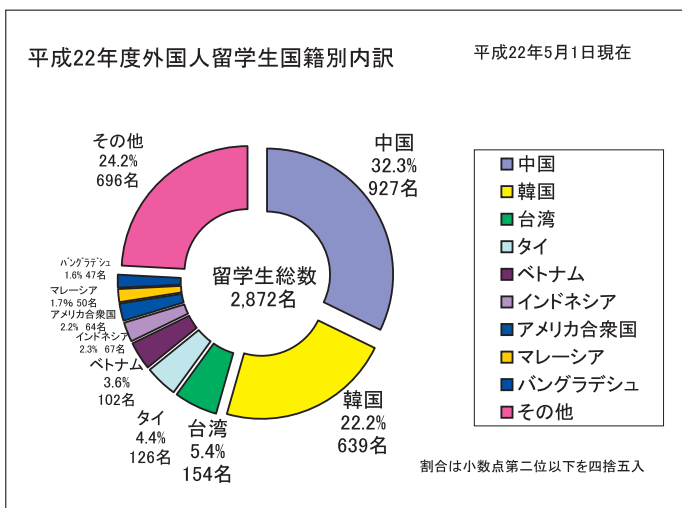
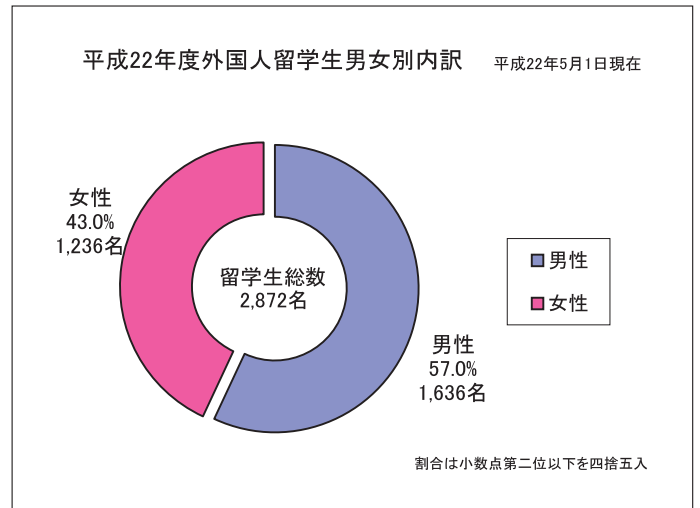
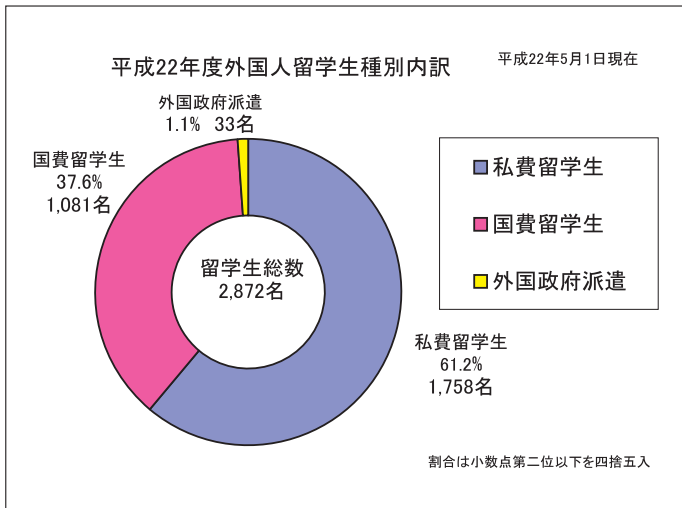
区 分	学部				大学院								研究所等		小 計		合計		
	学生		研究生等		修士課程		専門職 学位課程		博士課程		外国人 研究生等		大学院 研究生					研究生	
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
学部																			
教養学部 (前期課程)	50	64															50	64	114
法学部	7	7															7	7	14
医学部		1																1	1
工学部	33	27	16														33	43	76
文学部	6	3	1														6	4	10
理学部	5	3															5	3	8
農学部	1	5	2														1	7	8
経済学部	4	16															4	16	20
教養学部	6	1	27														6	28	34
教育学部	1	2															1	2	3
薬学部	4	4															4	4	8
小 計	117	133	46														117	179	296
大学院																			
教育学研究科					1	13			3	30	3	10			1		7	54	61
工学系研究科					123	187			205	232	55	90			4		383	513	896
薬学系研究科					1	3			6	9	4	4					11	16	27
情報理工学系研究科					25	37			47	40	19	22					91	99	190
学際情報学府					15	25			17	24	13	31			1		45	81	126
人文社会系研究科					12	28			20	47	18	40			3		50	118	168
法学政治学研究科					2	23	1	5	6	30	7	14					16	72	88
経済学研究科					11	18			2	6	3	1					16	25	41
総合文化研究科					21	47			42	93	22	35			5		85	180	265
理学系研究科					9	13			21	11	2	4			1		32	29	61
農学生命科学研究科					12	44			80	83	6	22			1		98	150	248
医学系研究科					6	26		3	27	74	6	9					39	112	151
数理科学研究科					4	4			7	2		1					11	7	18
新領域創成科学研究科					36	61			34	61	7	12			1		77	135	212
公共政策学教育部							3	6				3					3	9	12
小 計					278	529	4	14	517	742	165	298			17		964	1,600	2,564
研究所等																			
医科学研究所																	1	1	1
地震研究所																	1	1	1
生産技術研究所																	9	9	9
先端科学技術研究センター																	1	1	1
小 計																	12	12	12
合 計	117	133	46	278	529	4	14	517	742	165	298			17	12	1,081	1,791	2,872	

国又は地域別外国人留学生数

平成 22 年 5 月 1 日現在

区 分	国費						私費						合計					総計				
	学部		大学院等				学部		大学院等				学部		大学院等							
	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	小計	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	小計	学部	研究生等	修士課程		専門職学位課程	博士課程	研究生等	
アジア																						
パキスタン			4		12	1	17				3		2		5			7		14	1	22
インド	1		2		12	7	22				4		7	1	12	1		6		19	8	34
ネパール			3		4	2	9				8		6		14			11		10	2	23
バングラデシュ	4		6		15	1	26				8		12	1	21	4		14		27	2	47
スリランカ			5		2	1	8				4		6	1	11			9		8	2	19
ミャンマー			3		6		9				6		1	7			9		6	1	16	
タイ	10		25		33	10	78	7			13		19	9	48	17		38		52	19	126
マレーシア	8		8		8	6	30	2			5		9	4	20	10		13		17	10	50
シンガポール	5		1		1	2	9	4	3		1		2	10	9	3	2		1	4	19	
インドネシア	5		9		14	3	31		1	15	1	17	2	36	5	1	24	1	31	5	67	
フィリピン			3		11	5	19		1	2		2	3	8		1	5		13	8	27	
韓国	25		49		108	28	210	32	10	112	5	208	62	429	57	10	161	5	316	90	639	
モンゴル	9		1		5		15	2		7		7	1	17	11		8		12	1	32	
ベトナム	23		15		16	4	58		2	19		18	5	44	23	2	34		34	9	102	
中国	2		49	2	141	13	207	83	9	242	7	256	123	720	85	9	291	9	397	136	927	
カンボジア			1	1	1	1	4					1		1			1	1	2	1	5	
ブータン						1	1			1				1			1		1	1	2	
ラオス								1				1		2	1				1		2	
マカオ	3						3			1				1	3		1				4	
台湾									1	41	1	73	38	154		1	41	1	73	38	154	
小 計	95		184	3	389	85	756	131	27	492	14	644	253	1,561	226	27	676	17	1,033	338	2,317	
中近東																						
イラン			1		7	1	9			2		7	3	12			3		14	4	21	
トルコ			5		3	4	12		1			5	2	8		1	5		8	6	20	
シリア			1		2		3										1		2		3	
レバノン					1		1			1				1			1		1		2	
イスラエル			1		1	3	5										1		1	3	5	
ヨルダン			1		1		2						1	1			1		1	1	3	
イラク					1		1												1		1	
アフガニスタン					1	1	2												1	1	2	
イエメン										1				1			1				1	
アラブ首長国連邦						1	1	1						1	1					1	2	
バーレーン						1	1													1	1	
小 計			9		17	11	37	1	1	4		12	6	24	1	1	13		29	17	61	
アフリカ																						
エジプト					5	1	6		1	1		3		5		1	1		8	1	11	
スーダン					2		2					1		1					3		3	
チュニジア			1		3		4					2		2			1		5		6	
アルジェリア			1			1	2										1		1		2	
マダガスカル			1				1										1				1	
ケニア					1		1					1		1					2		2	
タンザニア	1		1				2					1		1	1		1		1		3	
コンゴ民主共和国												1		1			1		1		1	
ナイジェリア					1	1	2			1				1			1		1	1	3	
ガーナ			1				1										1				1	
モロッコ					1		1												1		1	
エチオピア			3		1		4			1				1			4		1		5	
ベナン			1				1										1				1	
小 計	1		9		14	3	27	1	3		9		13	1	1	12		23	3	40		
オセアニア																						
オーストラリア	1		2	1	5	3	12		2	2		3	1	8	1	2	4	1	8	4	20	
ニュージーランド			3		2	2	7			1		1		2			4		3	2	9	
パプアニューギニア												1		1			1				1	
小 計	1		5	1	7	5	19		2	4		4	1	11	1	2	9	1	11	6	30	
北米																						
カナダ	1		3		2	2	8			5		8		13	1		8		10	2	21	
アメリカ	3		10		10	5	28	1	4	6		11	14	36	4	4	16		21	19	64	
小 計	4		13		12	7	36	1	4	11		19	14	49	5	4	24		31	21	85	
中南米																						
メキシコ					4	4	8			1		1	1	3			1		5	5	11	
エルサルバドル	1						1								1						1	
コスタリカ			1		1		2										1		1		2	
キューバ						2	2													2	2	
ブラジル	4		13		14	10	41			1		4		5	4		14		18	10	46	
パラグアイ			1				1			1				1			2				2	
アルゼンチン	1		3		1		5								1		3		1		5	
チリ			2		1		3										2		1		3	
ボリビア			1				1			1				1			2				2	
ペルー			2				2					4		4			2		4		6	
エクアドル						1	1													1	1	
コロンビア			2		2	2	6			1		1		2			3		3	2	8	
ベネズエラ			1		2		3										1		2		3	
パナマ			1		1		2										1		1		2	
ジャマイカ			1				1			1				1			2				2	
ドミニカ国			1				1										1				1	
セントルシア										2				2			2				2	
小 計	6		29		26	19	80			8		10	1	19	6		37		36	20	99	
ヨーロッパ																						
アイスランド						1	1													1	1	
フィンランド	1						1						1	1	1					1	2	
スウェーデン	2						2		1			3	9	13	2	1			3	9	15	
ノルウェー									1				3	4		1				3	4	
デンマーク					1		1					1		2					2		4	
アイルランド			1			1	2										1		1		2	
イギリス					1	4	5		1	1		1	1	3		1	1		2	5	9	

ベルギー			1		2		3			1				1			2		2			4
オランダ					3	1	4					2	2	4				5	3	8		
ドイツ			3		6	2	11		3	1		7	7	18		3	4	13	9	29		
フランス			7		7	4	18		3	2		8	15	28		3	9	15	19	46		
スペイン					3	3	6					2		2				5	3	8		
ポルトガル			1		4	2	7									1		4	2	7		
イタリア			1		4	7	12		1			1	1	3		1	1	5	8	15		
ギリシャ			2			1	3									2			1	3		
オーストリア					1		1					1	2	3				2	2	4		
スイス			1		2	1	4		1			2	3	6		1	1	4	4	10		
ポーランド			1		1	1	3					3	2	5			1	4	3	8		
チェコ					1		1					1		1				2	2	2		
ハンガリー	1				4	1	6										1	4	1	6		
ルーマニア	1		3				4					1		1	1		3	1	1	5		
ブルガリア			1		2	2	5					2		2		1	1	4	2	7		
ロシア	4		2		4	2	12		1			3	3	7	4		3	7	5	19		
ラトビア						1	1												1	1		
スロバキア									1			1		2			1	1	1	2		
ウクライナ			1		2		3										1	2	3			
ウズベキスタン																			1	1		
カザフスタン			1				1										1		1	1		
ベラルーシ	1				1		2								1			1	2			
クロアチア			1				1					1		1			1	1	2			
スロベニア												1		1				1	1	1		
マケドニア			1				1										1		1	1		
セルビア																						
キルギス					1		1						1	1				1	1	2		
グルジア			1				1										1		1	1		
アルメニア						1	1												1	1		
モルドバ					1		1											1	1	1		
小計	10		29		52	35	126		11	7		44	52	114		10	11	36	96	87	240	
合計	117		278	4	517	165	1,081	133	46	529	14	742	327	1,791	250	46	807	18	1,259	492	2,872	







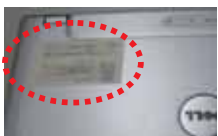
## PCリユースの

### 第9回 もしもし?

リユースオフィスには毎日、様々な電話がかかってきます。ブルルルル…

- 「もしもし?PCを借れますか」
- 「すみません、次回の募集までお待ちください」
- 「もしもし?〇〇課の者ですが、会議で使いたいの」
- 「すみません、学生さんが対象です」
- 「もしもし?デスクトップはだめ?部屋が狭くてねー」
- 「すみません、現在ノートしか扱ってないのです」
- 「もしもし?Windows98も、MACも提供できますよ」
- 「すみません、Windowsで、XP以降しかだめなんです」
- 「Hello? Can I ask you a question?」
- 「あっ、すみません!英語がわかるものに代わります(汗)!」
- 「もしもし?PCを出したいのですが」
- 「ありがとうございます!美津野商事さんにご連絡ください」
- 「シールが貼ってあるんだけど?事務に連絡は?」
- 「はい、大丈夫ですよ。そのままお出してください」

実は、この「そのまま美津野商事さんにご連絡」というところは私たちのこだわりの一つなのです。通常、大学で買った物は、きちんとした手続きを踏んで捨てることになっています。特に「物品番号票」と呼ばれている白いシールが貼られている物は所定の書類を提出して許可をもらわないと捨てられません。でも、せっかくなので提供しようと思った時に、「これは捨てていいのかな?」と担当者に連絡して、書類を提出して、許可をもらって、ようやく美津野商事さんへ…そのうち「う～ん、面倒だなあ。年度末の一斉廃棄に回そうかな」と思われてしまっは一大事!「思い立ったら吉日」とばかりに、すぐご提供いただくのが理想です。ですから、「そのまま美津野商事さんにご連絡」いただければ、例えば白いシールが貼っていても、美津野商事さんが必ず確認し、すぐにオフィスに連絡してくれます。後の作業は全てオフィスで処理



シールがあっても大丈夫!

をいたしますので、安心してそのままご提供ください(学内規則も変えました!)  
さてさて、今日も電話は鳴り響きます。ブルルルル…「お待ちせいたしました。ノートPCリユースオフィスです!」(青)

#### ☆6月各局部ご提供PC☆

本部 21台	経済学部 5台	情報学環・学際情報学府 5台
理学部 3台	教養学部 2台	先端科学技術研究センター 2台
史料編纂所 2台	教育学部 1台	生産技術研究所 1台
医学部 1台	地震研究所 1台	

以上44台のノートPCは4回目の募集時に利用させていただきます。どうもありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

- 問い合わせ先:ノートPCリユースオフィス(本部資産管理部資産課内)  
E-mail: pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp  
URL: http://pcreuse.adm.u-tokyo.ac.jp/  
内線: 22135(担当 小川・高橋・戸田)
- ノートPC回収先:美津野商事株式会社システム事業部  
E-mail: reuse@mizuno.net (担当 川崎・石井)  
電話: 03-3943-0181 FAX: 03-3943-4180

## インタープリターズ・ バイブル vol. 36



科学技術インタープリター養成プログラム

### 初年次活動センター活用のお誘い

長谷川寿一

総合文化研究科 教授  
教養学部附属教養教育高度化機構  
科学技術インタープリター養成部門

久しぶりに駒場 I キャンパスを訪れた皆さんは、一様にその変容ぶりに驚かれる。かの汚くも懐かしい駒場寮が消えた跡地には、二つの著名な建築賞を受賞したモダンなコミュニケーションプラザが立ち、伸びやかな芝生ではフレッシュな1、2年生がくつろいでいる。このコミュニケーションプラザの南、矢内原公園と向き合うガラス張りの瀟洒な建物が初年次活動センターである(写真)。

この初年次活動センターは、初年次教育を推進するスペースとして小宮山前総長のお計らいにより2008年度に設立された。面積は80平米ほどと小ぶりだが、20数名が着席できる自由空間とミニキッチン付きオフィスからなる。初年次教育とは、主として新入生を対象として、彼らが大学生活という新しい環境にスムーズに適應し、充実した社会的・学問的体験ができることを目指す教育プログラムを指す。サイエンスコミュニケーションの観点から言えば、このセンターでは、1、2年生に対して進路選択のために生きた情報をface to faceで提供する活動が可能である。具体的には、現在、学部単位で行われている進学ガイダンスをさらにきめ細かく、学科やコース単位で行ったり、各専門分野の魅力や面白さをアピールするサイエンス・カフェなどを催したりするのに格好なスペースである。我が身を振り返っても、初年次に感動した講義が進路を決め、今の自分につながっている。大教室ではなく、飲み物やお菓子を片手に最先端の科学について語り合えば、若者の心をしっかりとつかむこと請け合いである。

全学からの利用をお待ちします。初年次活動センターの設備の詳細と利用方法については、ホームページをご覧ください。



#### ★科学技術インタープリター養成プログラム

<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>



# ケータイからみた東大

～帰ってきた東大ナビ通信！～あらためて、No.1

連載再開！

## アメリカ大学事情 (1)

～カリフォルニア州立大学バークレー校について

はじめまして。大学総合教育研究センターで助教をしております、重田勝介と申します。携帯電話を使った教育情報サービス「東大ナビ」を運営しております。

昨年夏まで、こちら学内広報で「ケータイから見た東大～東大ナビ通信」という連載記事を書いておりましたが、事情により暫くお休みを頂いていました。といいますのも、私は昨年9月より7ヶ月間、本学より研修出向として、米国カリフォルニア州立大学バークレー校の客員研究員として赴任していたからです。昨年度末に帰国し、再びこちらで「東大ナビ」の告知ともしに連載を持たせて頂くこととなりましたが、再開にあたり、私が米国で見てきた「アメリカの大学の『いま』」をお伝えしてはどうかというこで、「東大ナビ」の告知と合わせ、数回にわたり書かせて頂くことになりました。本学には米国に限らず、海外経験の豊富な教員・職員・学生の方々が多数おられますので、あまり新鮮味がないのではと今から心配しておりますが、どうぞお付き合いのほど、よろしくお願い致します。

今回は第一回ということで、私の赴任しておりましたカリフォルニア州立大学バークレー校についてご紹介致します。

カリフォルニア州立大学バークレー校は、UCバークレー (University of California, Berkeley) と呼ばれ、アメリカ合衆国・カリフォルニア州にある公立大学の一つです。サンフランシスコ空港から車で1時間弱、「イーストベイ」と呼ばれる地域のバークレーという街にあります。緑に囲まれた大変美しいキャンパスで、敷地内にあるサザータワー(Sather Tower: 写真1)からは、バークレー市街やサンフランシスコ湾が一望できます。

カリフォルニア州立大学にはバークレー校を含めて10のキャンパスがあり、各キャンパスをまとめてUC Systemとも呼ばれます(図1)。バークレー校はその中でも中心校として位置づけられ、カリフォルニアにゴールドラッシュが吹き荒れた後の1849年に設立が構想され、1869年に開校されました。その当時、たった10人の教員と38年の学生で始まったバークレー校は、2009年度で2000人を超える教員と35,000人を超える学生を抱えています。UC System全体とバークレー校は、アメリカ合衆国の発展と共に、その規模を拡大してきたと言えるでしょう。

ここで紙面が尽きてしまいました。次号では現地での暮らしや研究についてご紹介致します。



(写真1) キャンパス内サザータワー



(図1) UC System 全体図



### 東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。是非、東大ナビをご活用ください！



### イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jpに

空メール送信！

■この記事のQRコードから

■mail@utnav.jp宛てに

メール送信

■携帯サイトutnav.jpに

アクセスしてメルマガ登録ページへ

※携帯電話・PC

どちらからも登録可能

返信メール

から

登録画面

に入力！

■ご所属

■性別・年齢など

登録完了！

■登録確認メールが届きます

■隔週でメルマガ・お得なクーポンGET！



### イベントを宣伝したい方

携帯・PCサイトで申し込めます

■http://utnav.jpにアクセス

■イベント掲載フォームから送信！

■追ってスタッフよりご連絡致します

教育企画室TREEオフィスまで！

■内線；27823 (重田)

■メール；info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp

■オフィス；本郷キャンパス

第二本部棟403号室

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共にご紹介していきます。

## 超音波治療機器パネルディスカッション 先端機器の早期導入を 実現する政策とは

わが国では革新的な治療機器が創出されているのに、患者の手に届くまでに時間がかかる状態が続いています。これを「デバイスラグ」といいます。革新的な医療機器と医薬品の早期導入は、先日公表された『新成長戦略』の中でも重要な課題の1つとして位置づけられています。しかし残念ながらデバイスラグの解決に向けた、真に有効な処方箋はまだ明らかになっていません。治療機器の中には欧米と比べ、約10年間も導入が遅れているものもあるのが実態です。

超音波治療は、わが国の優れた技術を活かせることはもちろん、費用や有効性の面などの多くの利点を持ちながら、開発や利用になかなか結びつかない、デバイスラグ

の「壁」に直面しています。その壁を生み出している最も大きな要因は、科学技術の進歩のスピードに、制度の変化が追いついていないことです。制度の空白が、革新的な治療を享受する可能性を阻んでいる問題については、政策ビジョン研究センターが取り組んでいる「テクノロジー・アセスメント」、「科学技術ガバナンス」、そして「制度創造」に関係しています。

今回のパネルディスカッションでは、医学、工学、医療政策、行政学という様々な専門家に加えて、産業界の方々を交えて、超音波治療の早期導入について、バランスの取れた改革パッケージを見出すことを、初めて試みました。鈴木寛文部科学副大臣からは、今回のパネルのような現場感覚を持った専門家コミュニティによるガイドライン作成等への協力について期待が表明されました。

先端的な超音波治療に取り組まれている医師の方々、電気機器の国際標準規格の策定に携わる専門家が加わったパネルでは、超音波治療が「壁」に直面している現状が明らかにされ、「壁」をつくり出している制度面・運用面、行政体制面、先端技術と社会



(左から) 松本洋一郎 理事 (副学長)、鈴木寛 文部科学副大臣  
 の関係、社会の意識等の多面的な課題、及びそれを踏まえた政策的な選択肢について、討議がありました。当センターでは、今後もこのような枠組みで継続的に行われる、意見の交換と提言の発信に協力していきます。



パネルディスカッションの内容を踏まえた課題整理マップ。左側が審査承認から上市後、右側が上市前に関連した課題です。それぞれの課題の関係性は矢印で記されています。各課題の下にあるサブテーマも含めたさらに詳しいマップ及び、本パネルディスカッションの討議内容を含む詳細な開催報告は、当センターHP上で公開しています。

### 超音波治療機器パネルディスカッション

- 日時：6月12日(土) 13:30～16:20
- 主催：JSTU(日本超音波治療研究会)
- 協力：政策ビジョン研究センター

### コラム紹介

## 規制緩和から制度創造へ

イノベーションを阻む制度の空白

政策ビジョン研究センター教授 坂田 一郎

学術知識の爆発の後押しされて、これまで社会が想定してこなかったような新技術・手法が生まれています。しかし、私達の日頃の生活の中に、これらの先端科学の恩恵はあまり入ってきてはいません。このコラムでは、イノベーションと制度創造との関係について論じ、技術進歩と制度整備のスピードの大きなギャップが、社会に損失をもたらしているという課題が提起されています。

…なぜ、我々は、もっと早く先端科学の恩恵を受けることが出来ないのでしょうか。大きな原因は、科学の進歩に制度の革新が追いついていないことにあります。ここでいう制度には、法律上の規制の他に、物や技術の承認基準、安全や倫理基準、標準、金融市場の監督・監視体制や基準、社会的

価値の高い技術の導入支援制度等、幅広い要素が含まれます。科学技術の進歩が急加速しているのに比べ、制度の変化は緩慢です。それによって生まれた制度の空白が社会的イノベーションの実現を阻んでいるのです。従来議論されてきたイノベーションのデスパレー(死の谷)は、主に資金不足に起因するとされてきました。こうしたデスパレーに対し、私は制度空白を作る谷を「第二のデスパレー」と呼びたいと思います。

制度の空白があると、具体的には、どのようなことが起こるのでしょうか。一つは、新技術が研究室から外の世界に出られなくなることで、新技術には何らかの危険が伴うことはよくあります。特にそのような場合、危険性を適切に評価し、社会的に管理するための制度が無いと、社会に受け入れてもらうのは難しい。規制が無いことがかえって完全な規制を引き起こします。

(中略) 薬事法は、大量生産によって製造され

るモノ(医薬品や医療機器)を対象としているため、テラーメイド製品や技術の評価方法や評価基準が不明確です。また、病院と細胞の培養等を行う企業、病院の臨床研究と企業主体の治療を橋渡すルールが不在です。ガイドラインの策定等、少しの進展はあるものの、研究室と社会の間には高い壁が立ちはだかっているといわざるをえません。生活支援ロボットについても、今後、同じような問題が出てくると思います。工場ではなく、市民生活の場に入るとなると、機械の専門家でない人々が使うわけですので、どうしても事故のリスクが高まります。生活の場に持ち込むには、出来るだけ事故を減らし、同時に、一定の危険性が避けられないものの利用について社会的コンセンサスを作るため、製品種類ごとの安全基準の早期整備が必要となってきます。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp/column/column08.html>  
 全文は当センターHPコラムをご覧ください。

## 160名を超える参加者に、新たな医工連携の創出の可能性を期待 第19回科学技術交流フォーラム「先端医療を支える科学技術」開催される

6月11日（金）、本郷キャンパス山上会館2階大会議室において、第19回科学技術交流フォーラム「先端医療を支える科学技術—新たな医工連携の創出を目指して—」が13時から18時まで開催されました。

今回のフォーラムでは、医用機器から臨床での応用成果、さらに医療の社会への繋がりという脈絡を広い視野から捉えることで、新たな医工連携の創出を念頭におき先端医療を支える科学技術について、各分野の第一線で活躍する本学の研究者に講演をお願いいたしました。

影山和郎産学連携本部長の開会挨拶に続き、松本洋一郎理事（副学長）より「東京大学ではすでに医工連携が様々な形で行われているが、今必要なのはリスクをとってでも臨床現場で実用化を進めてくれる企業であり、今回のフォーラムでは、企業の方々からの深い議論も期待したい」という挨拶がありました。その後、北森武彦教授（大学院工学系研究科長）より基調講演があり、現在、工学系研究科で行われている医工連携に関係する組織を示し、その取り組みを説明されました。



定員を上回る参加者で盛況な会場での質疑応答の様子

次に手術用ロボット等、工学系研究科での研究成果を紹介した後、大学発ベンチャー企業と開発し、実用化したマイクロ免疫分析装置の具体例が示されました。永井良三教授（大学院医学系研究科）は、医療開発の課題を広い視点から述べられました。これらは6つの課題としてまとめられ、今後の医療研究開発における方向性が示されています。そのほか、大学とベンチャー企業が一体となったオープンイノベーションの事例紹介、医用画像の高次元化、低侵襲高精度診断治療法、予防医療のセンサーネットワーク等の紹介がありました。

山上会館地階食堂で開催された交流会では、講演者と参加者が活発に意見交換をする姿が見られ、有意義な会となりました。このフォーラムから新たな医工連携が創出されることを期待します。

産学連携研究  
推進部(前編)

## TLF (テクノロジー・リエゾン・フェロー) のみなさん

産学連携本部には、自治体等公的機関の職員を対象とした、大学・産業界・官公庁との間の産学官連携を推進・管理する専門教育成制度、テクノロジー・リエゾン・フェロー(TLF)があります。今年度研修に來ている第11期TLFの6名のみなさんを、2回にわたってご紹介します。

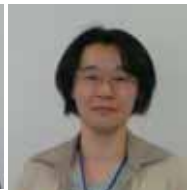
今年度は産学連携本部、産学連携研究推進部の第11期テクノロジー・リエゾン・フェロー（以下TLF）研修生として6名が各自治体から1年間派遣されています。

研修ではまず、産学連携や地域振興に関する講義を受け、また学外機関や企業の研究所・工場を訪問して基礎となる知識を広げます。さらに学内の各研究室を訪問して産学連携本部のウェブサイト「UCR（産学連携）プロポーザル」に掲載する共同研究テーマを発掘するOJT、および各テーマと企業とのマッチングによって連携を成立させる業務のOJT等によって実践力を培います。

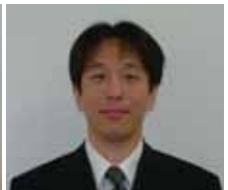
研修生のみなさんは、「この機会に東京大学の先生方との人脈を広げたい」「マッチングの現場に同席し、共同研究がどのような形で進むのかを実感したい」「研修で培った人脈や産学連携の知識を地元に戻ったときに役立てることができるように、いろんなことに挑戦したい」等の意欲に満ちています。今後研究室にお伺いすることもありますので、よろしく願いいたします。



佐々木 揚  
秋田県  
学術国際部



中村素美  
千葉県柏市  
まちづくり事業本部



太田 悟  
福島県  
ハイテクプラザ



山内章広  
沖縄県  
工業技術センター



相田亮子  
文京区  
男女協働子育て支援部



上野 剛  
大分県  
商工労働部

※敬称略  
所属は派遣  
直前の時点

連絡先：産学連携本部（本部産学連携課）  
電話：内線22857（外線03-5841-2857）  
WEBサイト：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR

検索

**DUCR**  
Division of University Corporate Relations  
The University of Tokyo

## ワタシのおシゴト 第53回

Rings around the UT

医科学研究所事務部経理課用度係

菊池 健さん

## コミュニケーションセンターだより No.67

## ■入学式、五月祭などで出店致しました！！

皆様こんにちは！ご無沙汰しております。

久しぶりのコミュニケーションセンターだより、まずは春のイベント出店報告です。

今年度の入学式は残念ながら大雨となりましたが、お足元の悪い中、沢山の入学生のみなさんと、保護者の方々にテントを訪ねて頂きました。

また、五月祭は天候に恵まれ大変な人手となり、店内・ウッドデッキでのご紹介にも沢山のお客様が集まって下さいました。

7月17日(土)には検見川の緑地植物実験地(大学院農学生命科学研究科)でも出店を致しました。

今後も様々な学内イベントにて出店して参りますので、普段本郷キャンパスにいらっしやらない皆様ともお会いしたいと思います。コミュニケーションセンターのテントを見かけましたら是非！お声をお掛け下さい！！

## ■UTCCスタッフおすすめ商品のご紹介!!



教育学部 総合教育科学科4年  
山本晃子



(左)蓮香オードパルファム:2,100円(税込)

(右)蓮香あぶらとりがみ:420円(税込)

(担当: UTCC 吉岡)

こんにちは！これからの季節にぴったりのオードパルファム「蓮香」をご紹介します！

研究をした博士の名が付いていることで有名な古代蓮である、大賀蓮の香りを使ったこの香水は、最初は瑞々しく爽やかな香りですが、次第に柔らかく豊かな香りになり、その後おひとりおひとりそれぞれ違うオリジナルの香りに変化していきます。

是非香りの変化をお楽しみ下さい。

蓮の花をイメージした色合いのボトルも美しく、プレゼントにも最適です。是非お試しください。

## おシゴト&amp;波乗り



デスクにて

日韓WCの年に本部契約課にて採用、その後日本芸術院庶務係を経て2年前に医科学研究所事務部経理課用度係へ着任しました。

医科学研究所は120年の歴史を持ち、白金キャンパスという知る人ぞ知る？お洒落な雰囲気かつ緑も多い素晴らしい環境のキャンパスにあります。そこでの私のおシゴトは、運営費による契約・執行業務や廃棄物等の管理、固定資産管理、その他何でも屋的業務の数々です。また昨年からは研究所内での不要物品の再利用を仲立ちするシステムを運用管理しており、気分はリサイクルショップの店員みたくて結構楽しいです。法人化後の厳しい運営の中、経費の無駄を省き、なおかつ楽しい、一石二鳥で業務に勤しんでおります。

私生活では昨年まで週末を利用して大学院に通っていましたが、無事修了！今年からは趣味のサーフィン(東大サーフィン部に加入しました。部員募集中！)&ギター、そして家族サービスのバランスが課題になりそうです。



## 得意ワザ:

ビールを美味しく  
飲み、誰よりも早く  
赤くなる事

## 自分の性格:

のんびりしがち

## 次回執筆者のご指名:

石塚泰史さん

## 次回執筆者との関係:

上司(元医科研  
用度係長)

## 次回執筆者の紹介:

頼れる親分、  
もとい係長です

## 海へ出発!

車で片道2時間です



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

OPEN: 月曜~土曜 10:00~18:00

電話: 03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

# FOREST NOW

行動シナリオの  
「今」をレポート

プロフェッショナルな  
職員を目指して



今回は、新人職員が描く将来の職員像についてレポートします。

6月25日(金)、平成22年度新規採用職員能力開発プログラム報告会が開催されました。約3カ月に渡って研修を受けた35名の新規採用職員が、研修の集大成として、6つの班にわかれて上司や先輩の前で発表を行いました。テーマは、それぞれの班が本学の教員(1名)へ取材を行って学んだことと、3カ月の研修を受けて彼らが考えた、「7月から仕事をする上で自分がなすべきこと」、「将来、自分が目指すプロフェッショナル像」です。

教員への取材では、遺体科学、地震研究、バリアフリーの研究など、「知の森」東大にふさわしく、多様で興味深い研究が紹介されました。一方で、事務的業務や管理運営業務に時間を取られ、研究をする時間が少なくなっているという問題が、多くの教員から指摘されていました。

「7月からなすべきこと」では、どの班も、まずは自分の仕事を覚えることを掲げていました。基礎を固めて信頼を得ることが第一という考えです。

「将来目指すプロフェッショナル像」からは、彼らが、仕事における技術を習得することもさることながら、自分の仕事以外のことにも目を向ける重要性を強く感じていることが窺えました。それは例えば、大学の教育研究活動について知ることや、全体的な視点で問題解決にあたることなどです。教員を取材して、研究の現場を垣間見て、教員のニーズを直に感じた経験が大きな影響を与えているのではないのでしょうか。ある班は、大学のいたるところに存在している困難やニーズを、組織的に汲み上げるプロジェクトを提案していました。

行動シナリオは、重点テーマの中に、「プロフェッショナルとしての職員の養成」を掲げています。今回の報告会では、プロフェッショナルとなるために職員一人一人が行えることが新人職員の視点で語られていましたが、発表を聞いて刺激を受けた職員も多かったのではないのでしょうか。

**行動シナリオを読もう!**  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/scenario/>

【お問い合わせ先】本部企画課(内線22393)

## 平成22年度 学内広報 発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日 (校了)	配布
1402	7月 28日(水)	8月 25日(水)	8月 31日(火)
1403	8月 30日(月)	9月 24日(金)	9月 30日(木)
1404	9月 30日(木)	10月 25日(月)	10月 29日(金)
1405	10月 29日(金)	11月 24日(水)	11月 30日(火)
1406	学生生活実態調査号		
1407	11月 26日(金)	12月 17日(金)	12月 24日(金)
1408	1月 6日(木)	1月 25日(火)	1月 31日(月)
1409	1月 31日(月)	2月 22日(火)	2月 28日(月)
1410	2月 28日(月)	3月 24日(木)	3月 30日(水)

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)  
【東京大学ホームページ】→【右下の学内広報アイコンをクリック】



問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム  
TEL: 03-3811-3393 内線22031  
E-mail: [kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

# INFORMATION

## 募集

### 募集

本部学生支援課

平成 22 年度第 1 回 (秋)  
東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦募集開始

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を取めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成 14 年度から設けられています。

この表彰は、本学教職員・学生からの推薦に基づき、「東京大学学生表彰選考会議」(以下「選考会議」という。)が選考にあたり総長が表彰するものです。

第 1 回 (秋) は学業以外の課外活動等を対象に募集します。また、第 2 回 (春) には年間総長賞受賞者の内、特に優秀な者に対し、「総長大賞」が授与される予定です。  
記

1. 提出物:別紙様式 1 (個人) 又は別紙様式 2 (団体) に必要事項を記入し、参考資料等を添付してください。また、書類の提出にあたってはホームページ上の「推薦書類の提出について」を参照してください。
2. 推薦基準:以下のとおり。
3. 提出期限:8月31日(火)まで(必着)
4. 選考結果:9月中下旬に受賞者及び推薦者へご連絡いたします。
5. 授与式:10月19日(火)に実施を予定しています。詳細は決まり次第お知らせします。

◎詳細については、ホームページをご覧ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12_j.html)



【提出先及びお問い合わせ先】

教育・学生支援部学生支援課学生生活チーム

担当:辻角・山形(内線:21205・22514)

E-mail: [gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

平成 18 年 6 月 28 日

一部改正 平成 22 年 6 月 23 日

学生表彰選考会議

東京大学学生表彰「東京大学総長賞」推薦基準

東京大学学生表彰実施要綱(平成 14 年 3 月 19 日総長裁定、平成 22 年 4 月 1 日改正)第 3 に基づき、推薦の基準を以下のとおりとする。

【推薦基準】

1. 第 1 回 (秋)
  - a) 課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を取め、本学の名誉を高めた個人もしくは団体、または課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人もしくは団体
  - b) 環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった個人もしくは団体、または社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人もしくは団体
  - c) 大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人もしくは団体
  - d) その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人もしくは団体
2. 第 2 回 (春)

学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人もしくは団体、または学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体

### 【被推薦資格】

- 個人の推薦においては、特段の場合、連名も可とする。
- 在学中の活動実績や学業等が上記推薦基準に該当する者は、卒業または修了後1年以内に限り被推薦者となることできる。

### 【推薦者】

- 推薦基準1については、自薦又は他薦とする。
- 推薦基準2については、学部学生は学部長、大学院学生は研究科長・教育部の部長に限る。

## お知らせ

### お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部

### 演習林の広報誌「科学の森ニュース No.50」の発行

「科学の森ニュース」は3ヶ月に1回発行している演習林の広報誌で、6月10日(木)にNo.50を発行しました。演習林の最近の話題を始め、動植物や名所・名物を紹介するシリーズも載っています。広報センター、農学部正門、農学系事務部、弥生講堂等で配布している他、演習林のホームページからもご覧になれます。

### 【 科学の森ニュース No.50 目次 】

#### 〈トピックス〉

- 北海道演習林長 梶幹男先生の最終講義が行われました
- 豊英島にてヒメコマツ植栽イベント開催
- 千葉演習林
- 大温室、源泉槽の改修工事の竣工
- 樹芸研究所
- 愛知演習林リーフレット4 出版のご案内
- 愛知演習林
- 演習林所属学生岡田桃子さん学部長賞受賞

#### 〈クローズアップ〉

- 東京大学附属中等教育学校の宿泊研修
- 北海道演習林

#### 〈演習林のイベントダイジェスト〉

#### 〈科学の森の動植物紹介〉

- ツタウルシ 富士演習林

#### 〈名所・名物案内〉

- 樹芸研名物「伊豆ゼミ」 樹芸研究所

演習林のホームページ

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>



### お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

### 「教養学部報」第531（7月7日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、駒場保健センターで無料配布しています。バックナンバーもあります。

第531号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

- 渡會公治：若者よ球速を高めよ
- 丸山真人：持続的開発とはどうあるべきか
- 嶋田正和：南米にマメゾウムシを求めて——ベネズエラ昆虫採集記——〈後編〉
- 佐藤俊樹：コピーとオリジナル  
～「コピペ」をめぐる考察～
- 木村秀雄：テーマ講義「グローバル時代をどう生きるか：プロフェッショナルが語る新たな可能性」
- 松本真由美・瀬川浩司：  
駒場博物館『自然エネルギーの世界——未来を拓くテクノロジー』

#### 〈本の棚〉

- 増田一夫：柴田寿子著『リベラル・デモクラシーと神権政治——スピノザからレオ・シュトラウスまで』
- 原 和之：湯浅博雄著『応答する呼びかけ』  
言語の限界と「文学」の使命
- 小島憲道：山脇直司著『社会思想史を学ぶ』

#### 〈時に沿って〉

- 武田将明：時に沿わぬ繰り言
- 井村祥子：大学の体育教員として奉職する私の意気込み



笹川俊 : 正方形のがちょうどいい  
小林未知数: 駒場の中で

駒場 秋の音楽会ご案内 (10/7、10/19)  
コーナーストーン、今期の学部報委員

## お知らせ

### 情報基盤センター

#### 8月限定! 「秘書さん向け“はじめての論文の探し方”ガイダンス」

先生に頼まれた論文の検索で困っていませんか? この機会に、論文の探し方の基本をマスターしましょう!

情報基盤センター図書館電子化部門では、8月限定で、「秘書さん向け“はじめての論文の探し方”ガイダンス」を開催します。

「文献検索は初めて」という初心者の方に向けて、文献リストの読み取り方から、電子ジャーナルで論文を入手する方法、各種文献データベースの使い方など、実際にパソコンを操作しながら実習します。

インターネット初心者の方も歓迎です。この機会に参加して、ぜひ業務にお役立てください。

予約優先です。席に余裕があれば当日参加もOKです。

#### ●対象:

本学所属の、研究補助を担当されている教職員(短時間勤務有期雇用職員含む)が主な対象です。

#### ●日程:

第1回: 8月5日(木) 16:00~17:00

第2回: 8月10日(火) 11:00~12:00

同じ内容で2回開催します。

#### ●会場:

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー  
(先着12名 事前予約の方優先)

#### ●内容:

- ・参考文献リストの読み取り方
- ・図書を探す(図書館での所蔵の有無を調べる)
- ・雑誌を探す(電子ジャーナルで論文を入手)
- ・あるテーマやある著者の論文を探す(日本語論文・英語論文)

その他、リクエストに応じて説明します。

#### ●参加費: 無料

#### ●申込み先:

学術情報リテラシー係(literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)宛てに、以下のメールをお送りください。

Subject (件名): 秘書向けガイダンス参加希望

本文: (1) 参加希望日 (2) 氏名 (3) 身分 (4) 所属  
(5) 講師への質問

#### ●授業に、ゼミに、ご希望の内容で出張講習!

ご希望の内容、日時、会場に応じたオーダーメイドの講習会を、随時承っています。(無料)

授業の1コマや、ゼミなどにご活用ください。

ご希望の内容、日時、会場、人数、連絡先を、メールで下記の問い合わせ先までご連絡ください。

詳細は下記サイトをご参照ください。

(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)



#### ●データベースや講習会の情報をお届けします。

Litetopi メールマガジン発信中。

当係発行の Litetopi (リテトピ) メールマガジンは、本学所属の方を対象に、各種データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)



[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

#### ●お問い合わせ:

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線: 22649)

[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>



## お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

### 第 68 回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第 68 回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、本学大学院理学系研究科の角川洋子博士による、陸上植物の多様性に関する講演です。様々な環境に進出した陸上植物には、その環境に合わせた大きな多様性が見られます。こうした多様性はどのようにして生じてきたのか、植物多様性研究の最新の知見に触れられる絶好の機会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

講師：角川 洋子（東京大学大学院理学系研究科）

演題：「陸上植物の多様性はどのように生じたのか」

日時：8月28日（土）14時～16時

場所：理学系研究科附属植物園本園（小石川植物園）柴田記念館

参加費：無料（但し、一般の方は入園料が必要です）

参加申込方法：8月19日（木）までに、往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：〒112-0001 文京区白山3-7-1  
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内  
小石川植物園後援会

koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp

問い合わせ先：理学系研究科附属植物園

杉山宗隆准教授（03-3814-0368）

## お知らせ

本部広報課

### 広報センター夏季臨時休館のお知らせ

本学広報センター（龍岡門横）は、下記のとおり臨時休館させていただきます。

8月10日（火）～16日（月）

本学広報センターに関する情報は、以下の URL をご参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/public02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/public02_j.html)

【東京大学ホームページ】→【右列の『広報・情報公開』をクリック】→【『広報センター』をクリック】

なお、閲覧可能な刊行物や配布物がございましたら、随時ご提供いただきたくお願い申し上げます。



## 各地区保健センター夏季の診療日程について

7月26日(月)～8月27日(金)の期間は、下表のとおり業務を行います。なお、各地区とも8月13日(金)～16日(月)は一斉休業状態とするため、全業務休止となります。

※診療日程はやむを得ず変更となる場合がありますので、ご利用の際には各地区保健センター Web サイトや掲示等で確認されるようお願いします。

## ■本郷地区 (03-5841-2575)

診療科等	診療日時等	対象者
内 科	月～金 10:00～12:30	学生・ 教職員
	9:00～10:00、12:30～17:00 は、急患対応いたします。 (※受付は、診療終了時刻の15分前までをお願いします。)	
精神神経科 (予約制)	月～金 10:00～13:00、14:00～16:00 【変更される場合がありますので保健センターサイトにてご確認ください。】	
歯科口腔外科 (予約制)	7/27 (火)・8/10 (火)・24 (火) 10:00～13:00	
	7/28 (水)・8/4 (水)・18 (水) 10:00～12:30	
	7/29 (木)・8/19 (木)・26 (木) 13:30～15:30	
	7/30 (金)・8/6 (金)・12 (木) 10:00～12:00	
耳鼻咽喉科	7/26 (月) 10:00～12:30、14:00～16:00	
	27 (火)・29 (木)・30 (金)・8/2 (月)・3 (火)・5 (木)・17 (火)・ 19 (木)・23 (月)・24 (火)・26 (木) 10:00～12:30	
	(※受付は、診療終了時刻の15分前までをお願いします。)	
学生健診追加項目検査	日程は、健康管理室 (内 22580) または Web サイトで確認してください。	学生

## ■駒場地区 (03-5454-6831)

診療科等	診療日時等	対象者
内 科	月～金 10:00～12:30 【※7月30日までは午後も診療します。】	学生・ 教職員
	9:00～10:00、12:30～17:00 は、急患対応いたします。 (※受付は、診療終了時刻の15分前までをお願いします。)	
精神神経科 (予約制)	月～金 9:50～12:50、13:50～16:10 (予約制) 【変更される場合がありますので保健センターサイトにてご確認ください。】	
歯科口腔外科 (予約制)	7/26 (月) 10:00～12:30、13:30～15:30	
	8/5 (木) 10:00～12:00 【矯正相談】、8/6 (金)・20 (金) 14:00～16:00	
	8/9 (月)・23 (月) 10:00～12:30	
皮 膚 科	8/10 (火) 14:15～15:45	
整 形 外 科	8/20 (金) 10:00～11:45	

## ■柏地区 (04-7136-3040)

診療科等	診療日時等	対象者
内 科	月～金 10:00～12:30	学生・ 教職員
	9:00～10:00、12:30～17:00 は、急患対応いたします。 (※受付は、診療終了時刻の15分前までをお願いします。)	
精神神経科 (予約制)	平常通り	
	【変更される場合がありますので保健センターサイトにてご確認ください。】	

## 金行健治准教授

5月28日、宇宙線研究所の金行健治准教授はご病気のためご逝去されました。享年46歳でした。

金行准教授は1986年に大阪大学理学部物理学科をご卒業後、同大学大学院理学研究科物理学専攻に進学され、大学院学生であった1990年に東京工業大学理学部物理学科助手として採用されました。その後1994年に博士（理学）の学位を取得されました。そして、1999年には宇宙線研究所附属宇宙ニュートリノ観測情報融合センターの助教授に採用され、宇宙線研究所で活躍されてきました。

金行先生のご研究は宇宙線研究所の大型水チェレンコフ測定器「スーパーカミオカンデ」を用いたニュートリノの研究でした。なかでも、スーパーカミオカンデ実験では、宇宙線が大気中の原子核と相互作用して生成する素粒子ニュートリノを観測していました。この観測を通して、1998年に世界に先駆けてニュートリノが飛行中に別の種類のニュートリノに変化する「ニュートリノ振動」を観測し、ニュートリノに質量があることを示し、素粒子物理学の世界で長年に亘って求められてきた素粒子の標準理論を超えた物理学へ



の最初の一步となる観測結果を報告しました。この際、金行先生は解析グループの中心メンバーとして大きな活躍をされました。その後、先生はご研究の中心を、加速器でニュートリノを生成し、それを数百キロメートルも離れたスーパーカミオカンデで検出してニュートリノ振動を調べる研究へと移されました。この研究の最初のは1999年から2004年の間に行われました。そして今年、次の研究が本格的に始まりました。この実験は茨城県東海村の加速器J-PARCでニュートリノを生成し、それをスーパーカミオカンデで検出するというもので、この実験では、いわばニュートリノ振動の全体像を明らかにできると期待されており、金行先生はこの実験に向けての準備研究を何年間も精力的に進めてこられました。このようななかでの先生のあまりに早い逝去は、研究仲間には大きなショックでした。

金行先生は宇宙線研究所の共同利用の大型計算機システムの運用や宇宙線研究所の共同利用研究に関する委員会の委員を長年に亘って務めるなど、共同利用研究所である宇宙線研究所の運営にも多大な貢献をされました。

金行先生のまじめで妥協を許さない研究態度を忘れることなく、新たに始まったニュートリノ実験を成功させることは、我々残された者の責務であると感じています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(宇宙線研究所)

## 人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
22.6.15	何 祖源	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科特任教授
22.6.30	橋本 浩一	大学院医学系研究科准教授	広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授
（採 用）			
22.6.16	TANIMOTO TOSHIRO	大学院理学系研究科教授	
22.7.1	中尾 和貴	大学院医学系研究科附属疾患生命工学セン ター准教授	
22.7.1	野地 博行	大学院工学系研究科教授	大阪大学産業科学研究所教授
22.7.1	布施 孝志	大学院工学系研究科准教授	国土技術政策総合研究所高度情報化研究センター 研究官
22.7.1	杉浦 幸二	大学院農学生命科学研究科准教授	
22.7.1	岡ノ谷 一夫	大学院総合文化研究科教授	
（昇 任）			
22.6.16	今井 公太郎	生産技術研究所准教授	生産技術研究所講師
22.6.16	岩船 由美子	生産技術研究所附属工エネルギー工学連携研究 センター准教授	生産技術研究所附属工エネルギー工学連携研究セン ター講師
22.6.16	竹内 涉	生産技術研究所准教授	生産技術研究所講師
22.7.1	大津 透	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科准教授
22.7.1	佐藤 雅俊	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科准教授
22.7.1	垣内 力	大学院薬学系研究科准教授	大学院薬学系研究科講師
22.7.1	佐藤 洋一	生産技術研究所附属戦略情報融合国際研究セ ンター教授	大学院情報学環准教授
（配置換）			
22.6.16	古澤 明	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科附属量子相エレクトロニクス 研究センター教授
22.7.1	石谷 隆一郎	大学院理学系研究科准教授	医科学研究所准教授
22.7.1	上條 俊介	大学院情報学環准教授	生産技術研究所附属戦略情報融合国際研究セン ター准教授
22.7.1	豊島 近	分子細胞生物学研究所附属高難度蛋白質立体 構造解析センター教授	分子細胞生物学研究所教授
22.7.1	伊藤 啓	分子細胞生物学研究所准教授	分子細胞生物学研究所附属細胞機能情報研究セン ター准教授
22.7.1	小川 治夫	分子細胞生物学研究所附属高難度蛋白質立体 構造解析センター准教授	分子細胞生物学研究所准教授
22.7.1	北尾 彰朗	分子細胞生物学研究所附属高難度蛋白質立体 構造解析センター准教授	分子細胞生物学研究所附属細胞機能情報研究セン ター准教授
22.7.1	杉田 和幸	分子細胞生物学研究所附属高難度蛋白質立体 構造解析センター准教授	分子細胞生物学研究所准教授
22.7.1	前田 達哉	分子細胞生物学研究所附属高難度蛋白質立体 構造解析センター准教授	分子細胞生物学研究所准教授
22.7.1	横田 明	分子細胞生物学研究所准教授	分子細胞生物学研究所附属細胞機能情報研究セン ター准教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



# 「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

## 作成例

本部広報グループ

「キャンパスツアー」スタート!

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、五月祭期間や年末年始、入試期間を除く授業期間の土曜日と日曜日(10:00~12:00、14:00~16:00)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

- ・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける。写真は3枚程度まで
- ・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)

句読点は「、」「。」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

## 提出上の注意

### 1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。  
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

### 2. 締切日

HPで発行スケジュールを確認すること。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)  
トップページ> 広報・情報公開> 学内広報

### 問い合わせ先・提出先

本部広報課広報企画チーム  
TEL: 03-3811-3393(内線 22031)  
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、**その際はお問合せ願います**。

# Contents

## 特集

- 02 Life in Green Projectってなに？  
08 東京大学学生支援事業・第3回学生企画コンテスト表彰式及び懇談会

## NEWS

### 一般ニュース

- 10 海洋アライアンス  
第9回イブニングセミナー開催の報告  
10 学生相談ネットワーク本部  
学生相談ネットワーク本部主催講習会「心をつなぐ工夫」(第2回、第3回)を開催  
11 本部キャリアサポート課  
知の創造的摩擦プロジェクト第10回交流会開催  
12 本部管理課  
柏ロッジで、初の消防訓練  
12 環境安全本部  
「本郷消防団消防操法大会」実施される  
13 本部奨学厚生課  
「東京大学光イノベーション基金奨学金」平成22年度受給者証書授与式を開催  
14 本部人事企画課  
濱田総長から村尾男女共同参画室長に「女子の進学促進」に関する審議依頼が行われる  
14 本部人事給与課  
名誉教授の称号授与

### 部局ニュース

- 15 生産技術研究所  
情報処理学会創立50周年記念全国大会開催  
16 地震研究所、大学院工学系研究科・工学部、生産技術研究所、大学院理学系研究科・理学部、情報学環  
東京大学シンポジウム「長周期地震動とその都市災害軽減」開催  
17 医科学研究所  
第37回医科学研究所創立記念シンポジウム開催  
17 大学院法学政治学研究科・法学部、大学院公共政策学教育部  
留学生見学旅行を実施  
18 大学院農学生命科学研究科・農学部  
「水産学科創立100周年記念式典・シンポジウム」開催  
19 大学院教育学研究科・教育学部  
OECD JAPAN セミナー「保育者の専門性と園組織運営における質の向上」を開催  
19 大学院工学系研究科・工学部  
第1回超小型衛星シンポジウム開催  
20 大学院工学系研究科・工学部、大学発教育支援コンソーシアム推進機構(COREF)  
東大生、小学校で工学の特別授業  
21 大学院教育学研究科・教育学部  
研究倫理教育を話題に三部局連携のFDの会を開催

### ◆表紙写真◆

- 19年ぶりに開花したショクダイオオコンニャク  
(2ページに関連記事)

## キャンパスニュース

- 22 本部キャリアサポート課  
平成21年度学部卒業生及び大学院修了者の就職状況  
29 本部留学生・外国人研究者支援課  
平成22年度外国人学生数－国費外国人留学生数1,081人、私費外国人留学生数1,758人  
外国政府派遣留学生数33人、その他の外国人学生数(在日外国人学生数)282人－

## コラム

- 33 PCリユースのわ 第9回  
33 インタープリターズ・バイブル vol.36  
34 ケータイからみた東大～東大ナビ通信～  
35 Policy + alt vol.11  
36 Crossroad 産学連携本部だより vol.56  
37 コミュニケーションセンターだより No.67  
37 Relay Column「ワタシのオシゴト」第53回  
38 FOREST NOW 行動シナリオの「今」をレポート

## INFORMATION

### 募集

- 39 本部学生支援課  
平成22年度第1回(秋)  
東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦募集開始

### お知らせ

- 40 大学院農学生命科学研究科・農学部  
演習林の広報誌「科学の森ニュース No.50」の発行  
40 大学院総合文化研究科・教養学部  
「教養学部報」第531(7月7日)号の発行  
——教員による、学生のための学内新聞——  
41 情報基盤センター  
8月限定!「秘書さん向け“はじめての論文の探し方”ガイド」  
42 大学院理学系研究科・理学部  
第68回小石川植物園市民セミナーのご案内  
42 本部広報課  
広報センター夏季臨時休館のお知らせ  
43 保健・健康推進本部  
各地区保健センター夏季の診療日程について

## 訃報

- 44 金行健治准教授

## 事務連絡

- 45 人事異動(教員)

## 淡青評論

- 48 雑感

## 編集後記

今号の特集は小石川植物園の温室救済プロジェクトです。無事、入稿を終え、一息ついていたところ、突然、ビッグニュースが!なんと、世界一大きな「花」が特徴の絶滅危惧種、ショクダイオオコンニャクが小石川植物園で開花すること。種から育てて16年目の開花だそうです。というわけで、今号の表紙は世界一大きな「花」。貴重ですねー。(し)



七徳堂鬼瓦

## 雑感

私は映画を見るのが好きである。ここでは映画を見ながら考えた事を述べてみよう。

「七人の侍」は、多くの人知っている有名な映画である。その一シーンに野武士に襲われそうな村人が円陣を作りしゃがみこんで議論しているシーンがある。しゃがむ姿勢というのは卑屈さを感じさせるものである。また、長老は、村人は、晴れても、雨が降っても、風が吹いても心配すると説明する。これは、何となく今の日本社会を連想させる。何が

あっても心配し、困った困ったとしゃがみ込んでいるような気がする。何かを変えたいと思うなら、いろいろな変化がある。その細かい変化をいちいち取り上げ、気にするようでは何も変えるなど言っているのと同じではなかろうか。

このような事が起こるのは、日本人は基本的に変化を好まないためかもしれない。そして、この精神構造が匠／職人の世界にも通じているような気がする。変化を好まない状況下では問題設定を閉じてしまいがちである。設定を閉じれば、後はいかにうまく解くかという技術の問題になる。そして、その技巧をきわめる事が、職人芸、匠の世界になるのであろう。映画においても、昔は冬と言えば「忠臣蔵」が定番であった。物語は決まっており、観客は俳優の演技やセットの緻密さ等を楽しんでいた。これは「ヤクザ映画」「フーテンの寅さん」などにも通じている（「ロッキー」、「ランボー」も同じ!）。話の基本は、ほとんど変わらず、観客は“安心して”見てられるのである。しかし、問題設定が“開放系”ならば、このような世界は崩れる事がある。例えば移動の手段が地上から空中になるというような事である。考えるべき重要な点は、問題の本質（前の例であれば“移動する”という事）であり専門化された技術ではない。私は、匠／職人の世界は好きである（当然、その系統の映画も）。しかし、多くの問題は開放系であり、問題の本質をふりかえる事も忘れてはならないと思う。

本多 了（地震研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1401 2010年7月26日  
東京大学広報室

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学本部広報課  
TEL：03-3811-3393  
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/>